Kameoka KIRI Art Cultivation

かめおか霧の芸術祭

めぐるかめおか

KIRI

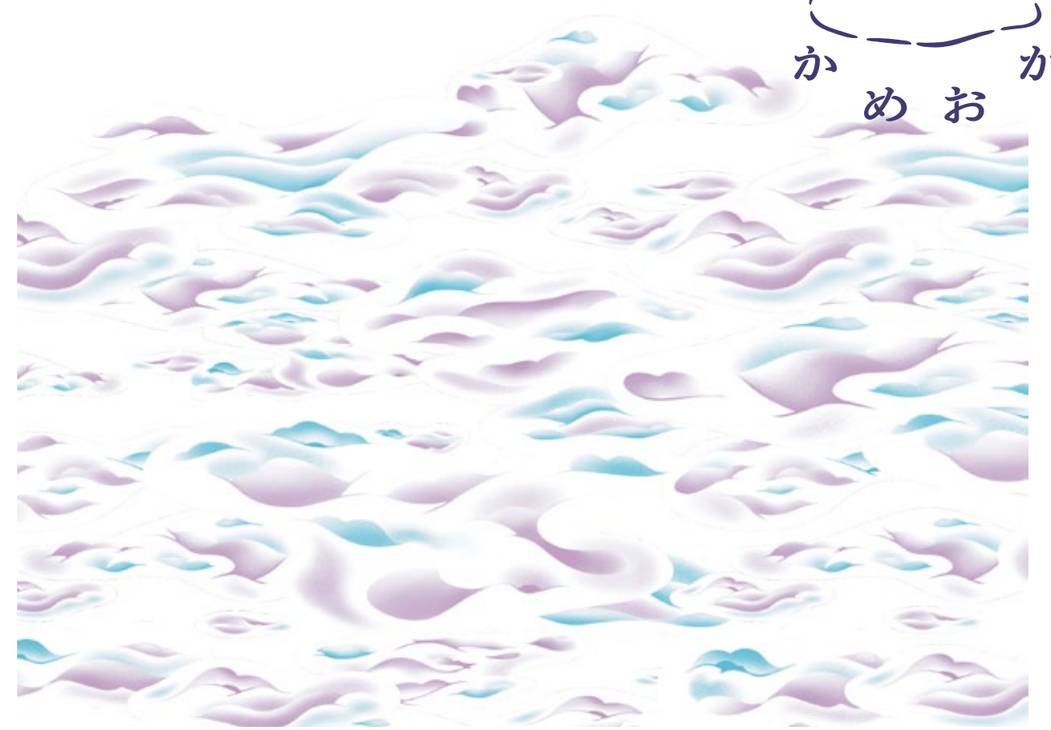
かめおか霧の芸術祭

Kameoka KIRI Art Cultivation

霧のまち　かめおかを　めぐりめぐる　18日間

めぐる

かめおか



霧のまち　かめおかを　めぐりめぐる　18日間

霧は大地の呼吸である

その霧を深く吸い込み大気の一粒一粒を身体に循環させ、
人も野菜も野山も川も育ってきました。

明智光秀の鼻息、円山応挙のため息、出口王仁三郎の寝息、
いろんな吐息が亀岡の盆地に消えては湧き立ち再び霧となり、私たちの体内を巡ります。
霧は命のスープです。

かめおか霧の芸術祭では、農と芸をつないだたくましい「野良」の芸術を育てます。
「野良」とは有機的連関、つまりオーガニックということです。
野に立ってみないと見えないつながり、
ここではないどこかに連れて行ってくれる力、
そんなつながりや、力を持った人が、本当の芸術家です。

作品だけが芸術ではありません、
生命や魂をより一層輝かす「技術」のことをそう呼びましょう。

美味しい野菜を育てることができる人、
渓流を綱渡りのように舟を操ることができる人、
悲しい人に寄り添える人、鳥と話せる人、へそで茶を沸かせる人、
そんな芸術家がいっぱい暮らす霧の盆地「霧で揉まれた野菜はうまい」ように、
霧で揉まれた人も美しい。
生きる技術の輝きにあふれた芸術祭、それが〈かめおか霧の芸術祭〉です。

かめおか霧の芸術祭　総合プロデューサー　松井利夫

KIRI
かめおか霧の芸術祭
Kameoka KIRI Art Cultivation

～めぐるかめおか～

霧のまち　かめおかを　めぐりめぐる　18日間

会期　2021年02月11日（木・祝）— 28日（日）

会場　亀岡市役所 / 亀岡市文化資料館 / 大本みろく会館 / みずのき美術館 / KIRI CAFE / 旧おぎた商店 / 旧沼田モータース / 稱名寺 / 嶺樹院 / 大圓寺 / 本門寺 / 「離れ」にのうみ / その他、市内各所

この本は、かめおか霧の芸術祭「～めぐるかめおか～ 霧のまち かめおかを めぐりめぐる 18 日間」の記録であるとともに、2018 年より展開してきた〈かめおか霧の芸術祭〉の軌跡を収めています。

目次

6　**Interview** from 亀岡 SDGs オンライン シンポジウム
かめおか霧の芸術祭のはじまり

10　Part 1
霧の芸術館
12　文化資料館
26　大本みろく会館
40　みずのき美術館

44　Part 2
霧の城下町
46　旧おぎた商店　インフォメーションセンター
49　旧沼田モータース
51　市内各地
52　亀岡文化交流協会 創立40周年記念発表会

54　Part 3
市役所展

58　Part 4
竹展　竹を編む 記憶を辿る

62　Part 5
かめおか霧の芸術祭 2018-2021

68　霧のまち かめおかを めぐりめぐる 18 日間

69　クレジット

Interview from
亀岡 SDGs オンライン シンポジウム

「亀岡 SDGs オンライン シンポジウム」
2021年 2月23日（火・祝）
桂川孝裕（亀岡市長）、仲山徳音（亀岡前副市長）、高木超（亀岡市 SDGs アドバイザー）、奥山理子（みずのき美術館キュレーター）、松井利夫（かめおか霧の芸術祭総合プロデューサー）、武田幸子（KIRI CAFE 店長 / HOZUBAG 亀岡工場長）
進行：小山龍介（一般社団法人きりぶえ）

かめおか霧の芸術祭の始まり

武田／最初に、霧の芸術祭が始まる前に、亀岡の農家さんにみずのき美術館に集まってもらいましたよね。

奥山／そうでしたね。私も当時はみずのきの施設で毎日畑作業をしていて、その関係で新規就農で移住された方とか、もともと亀岡で農業されていて世代交代された若い農家さんと繋がりがあって、そういった方々に集まっていただいてお話を聞いたんですよね。

松井／みんなそれぞれに拘りを持っていて、迷いながらも自分の作り方っていうのを実践しているんですね。拘りが強いからみんなよく喋るんです。その次には自分の畑を見てくれというんです。アーティストとはまったく逆で、アーティストは自分の作品のことはそんなに褒めないし、自分のやっていることは小声では言うんですけど、アトリエを見せてよって言っても「いえいえ見せるほどではないんで」とか言って見せてくれないんですよ。でも農家さんは真逆。

奥山／私はその状況を見て、アーティストたちが美術のことを語ったり議論している様子と、農家さんの話に共通点をすごく感じて、農家さんたちと話しをするとこんなにもクリエイティブなんだと思って、対象は野菜だけど、自分が生み出しているものだし、その時の会話はずっと続けていきたいなと感じましたね。

松井／その時の話がすごく面白くて、これは農家さんを中心に芸術祭をやろうということになったんです。耕すのはなにも土だけではなくて、地域の魅力や文化や歴史も耕していくような、そんな芸術祭にしようということになったわけです。

不便さから生まれるクリエイティブこそが芸術

松井／京都市内へ行くと色々なもので溢れていますけど、亀岡に住んでいると適度に不便なんですね。不便なので工夫しなくては仕方がない。亀岡にいると不便の中から工夫が生まれるんです。そういう意味で、すごくクリエイティブなんですね。このクリエイトこそがアートだと思うんです。
一般的な芸術祭というと、海外から有名な芸術家を呼んできて、飛行機で作品を運んで、大きなものを作ってというものが主流でしたよね。どれだけのガソリンとどれだけのお金を使ってそれを作ったかがすごいというような、そういうことがすごいと思っていたのが 20 世紀の芸術祭だったと思うんですね。
一方で亀岡では、地域の中に美しく見えるものがたくさんあって、保津川下りにしても、あんなに大きな舟にたくさんの人を乗せて下っていく、その下り方がまた美しくて、そういう技術がある。そういうことのできる人が芸術家だと思うんです。
何も美術をやっている人だけが美術家ではないと。自然の美しさに人の手を加えることによってさらに美しさを生み出す、それができる人がアーティストだと思うんです。
そういう視点で亀岡を見てみると、船頭さんもお百姓さんも、みんな芸術家なんですね。
亀岡でやる芸術祭というのは、まちの人たちの日々の営みの中から出てくる美しさ、そうした風土の美しさをそのまま出していく芸術祭なんです。

武田幸子（KIRI CAFE 店長 / HOZUBAG 亀岡工場長）

桂川孝裕（亀岡市長）

奥山理子（みずのき美術館 キュレーター）

仲山徳音（亀岡前副市長）

松井利夫（かめおか霧の芸術祭 総合プロデューサー）

20m 級のエコバッグ

SDGs 未来都市亀岡・自治体 SDGs モデル事業

桂川／亀岡市は 2020 年 7 月に内閣府から SDGs未来都市ならびに自治体 SDGsモデル事業に選ばれたわけですが、もともと SDGs を戦略的にやっていたわけではないんです。
1999 年頃、いまから 20 年ほど前になりますが、将来、2020 年の亀岡の未来をどう描くか、ということを考えた時に、亀岡の持つ自然、京野菜を含めた農産物、保津川などを含めた「環境」というものにフォーカスを当てて、環境先進都市を目指していこうと、エコロジカルミュージアムというような、まち全体を通じたミュージアムのような空間にしていこうと考えていたんです。
環境を軸にした取り組みは、もともとは保津川のゴミ問題がきっかけでした。亀岡市は保津川下りで年間25万～30万人、トロッコ列車で年間120～130万人の観光客が来ます。この影響で保津川にどんどんプラスチックゴミが目立つようになって、もうボランティアによるゴミ拾いだけでは到底追いつかないようなゴミの量になってしまった。せっかく保津川下りに来ていただいても、ゴミを見て帰るような状況になってしまったんですね。
そこで、こうしたプラスチックゴミをなんとかしようと取り組んできました。その結果、2018 年には「プラスチックごみゼロ宣言」を行い、2021 年 1 月からは日本初となるプラスチック製ゴミ袋の提供禁止条例を施行し、さらに 2030 年には使い捨てプラスチックをなくしていこうという取り組みを進めています。
京都スタジアムを誘致する際も、スタジアム候補地に天然記念物のアユモドキがいるということで、アユモドキを守るためにスタジアムの移転を行い、生態系や環境を守ってきました。
農業についてもより環境に優しい農業ということで無農薬・有機農業を広めたり、エネルギーにしても、よりクリーンなエネルギーを進めていくために亀岡市が再生エネルギーを扱う新たな新電力会社を設立したり、下水道の最終処理場から出る消化ガスをエネルギーとして活用していく事業も始まりました。
こうした生物多様性やエネルギー、農業など、さまざまなことに取り組んできた内容が、SDGs の掲げる 17 の目標とすごくマッチしていたんですね。街としても目標を掲げていくことが大事だということも考えて、仲山前副市長に、国の SDGs 未来都市の選定に応募しようとお願いをして、彼が「かめおか霧の芸術祭 × X（かけるエックス）」として、芸術をハブにしたまちづくりとして提案してくれたことで採択にいたったわけです。

かめおか霧の芸術祭 × X（かけるエックス）とは？

仲山／2019 年の7月に亀岡市がプラスチック製ごみ袋ゼロを目指すんだという時に、それをどうやって市民に伝えるか、理念を広めるかを悩んでいた時に、アーティストの方が廃棄されそうなパラグライダーの生地を使って、駅北の広場で 20m 級のエコバッグを作ろうと提案してくれたんですね。
実はそのほかにもいろいろなアイデアが出てきていたんですけど、そういった話しを聞いた時に自分の価値観が変わるような体験があって、芸術の力で世の中の見方とか価値観を変えることができるんだと感じたんですね。いわゆる絵画とか陶器とか、そういった作品という形のあるものだけではなくて、形はなくとも人に新たな価値を与えて世の中を変えたり、新しいモノの見方に気づかせてくれるものもアートなんだと、あるいはデザインの力で政治とか政策だけでは解決できないものでも人々を導いていけたり、そういったことができるのが芸術の力なんだという話しを聞いた時に、亀岡が抱えている課題に対して新しいアプローチをみた気がしたんです。
地方都市では高齢化や人口減少の中で難しい課題も多いんですけど、それこそ環境だけではなく、農業も、あるいはまちの中でどうやって地域経済を回していくかといったことも、芸術の力で新しいアプローチができるんではないかと思ったのがきっかけでした。そこからわずか 2 年ほどですけど、いますごく大きな取り組みとなって、芸術祭として根付いてきていると思っています。

例えば１つが環境面で、ゴミを出さない地域を目指しましょうという目標に向けて、プラゴミゼロの取り組みや、環境ロゴマークも生まれました。
農業でも、いままではなかなか目立ってこなかった、地域の中で環境に配慮しながら野菜づくりをしている農家さんや、その農家さんがつくる農産物など、なかなか消費者、市民との接点がなかったのが、アートの力を借りながら屋台を作りデコレーションしてみたり、野菜の売り方や見せ方を変えてみたり、野菜を作る楽しみも伝えていける、そういう場を芸術家の方と一緒に作ったりなど、いろいろなことに芸術が生かされています。
課題はたくさんあるんですけど、芸術の力を使って、楽しみながらまちをつくっていく。農業、福祉、教育、いろんな課題解決を図っていく。ゆたかな地域資源やいろいろな人達とつながりながら地域づくりをしていくのが、かめおか霧の芸術祭 × X（かけるエックス）です。

開かれたアトリエ

桂川／亀岡市が内閣府からSDGs未来都市に選ばれただけでなく、かめおか霧の芸術祭を中心とした取り組みが自治体SDGsモデル事業に選定されたことで国から補助金をいただきました。この補助金を有効に使いながら、どういったことができるかを考える中で、身近なところで多くの市民が利用できる拠点づくりをしていきたいというのがありました。いろいろな候補地がある中で、市役所地下にあるレストランをリノベーションして、市民が自由に使える「開かれたアトリエ（仮称）」という形で整備をしようということになったんです。
実は市役所地下のレストランはこれまで非常に稼働率が悪くて、お昼の３時間くらいしか実質的には稼働していなかったんですね。市役所の中でも一番、市民に利用されていないスペースだったんです。このスペースをもっと市民に利用してもらえるように、レストランの機能は維持しつつも、コワーキングスペースや交流スペース、アート展示、イベントスペース、地域の情報発信など、複合的な機能を持たせて市民がイノベーションを起こす拠点として整備しています。そして市役所の職員もそういった場所を活用して、市民の方との交流を深めてもらえたらいいなと考えています。
「アトリエ」という名前がついていますが、何か形のあるものを作る場所という意味ではなく、市民が集い繋がることで新しい何かが生まれていく、そんな形のないものを創りだしていく場所が、この「開かれたアトリエ」なんです。

松井／アトリエの整備を進めていると、地域の材木屋さんが材木を提供してくれるという話があったり、石材屋さんがこういった石はどうですかとか、いろんな人が“どうですかとうですか”と言ってきてくれるようになったんですね。そういった意味ではアトリエはまだ改装中なんですけど（令和３年２月現在）、もうすでに市民が参加してくださっていて、アトリエとして機能し始めているなと感じるんです。
まだ、このあとどんな場所になっていくのかというのは未知数ですが、10年、20年後の亀岡を支えてくれる若者や子どもたちのためになるようなことをたくさんやっていきたいと思いますね。

SDGs未来都市亀岡の啓発動画

松井／2020年の12月には、SDGs未来都市亀岡の普及啓発のひとつとして、“市民によるてつがく対話”を動画として収めた『しぜんの中の小さな会議』も行いました。
この動画では、年齢も職業も性別も超えて、市民だれもが対等な立場で対話をすることから持続可能なまちづくりを進めようという考えで、市長や小学生、大学生、社会人や主婦の方も参加して、お互いに自分の中にある問いを共有しながら「対話」を進めていったんです。

環境ロゴ「ともに生きる プラごみ ゼロ」

アート × 農業「やおやおや」

～2020年「レストラン」

リノベーション
2021年４月～「開かれたアトリエ」（予定）

市役所地下スペース

高木超（亀岡市SDGsアドバイザー）

映像・プログラムディレクター / 丹下紘希

“てつがく対話”のドキュメント映像（38分）

高木／SDGsという視点から見ても、世代を超えて集まることのできる「対話の場」があるということは非常に重要ですね。小学生や中学生も含めて、次の世代を担う人たちも自分たちの思いを発言できる場だったり、実現できる場があることがとても大切だと思います。

桂川／私も実際にタカちゃんとして「対話」に参加させていただきましたが、対話のテーマも予め決まっていたわけではなくて、対話のきっかけとなる元も対話で決めていく、テーマもみんなの対話から決めていく、そんな場だったんですね。紅葉の中で、夜には焚き火をしながら、自然の中で対話をすることで、すごくナチュラルに対話ができたと思います。

松井／亀岡の特徴的なところは、市長を含めて亀岡市の行政の方に受け入れる姿勢があって、排他的ではないんですね。市民としっかりと対話をしてくれているので、そういった行政の果たしている役割もとても大きいと思います。芸術祭だけではこうした流れはできなかったと思いますね。一般的には行政と市民とを切り離しがちですけど、亀岡ではそこが融合して新しい行政が生まれ、新しい芸術祭が生まれているように感じますね。行政と市民が一体となって新しいイノベーションがいままさに起きている。それこそが亀岡であり、かめおか霧の芸術祭だと思います。

「しぜんの中の小さな会議　ヒトがわれわれといきること」

出演
対話１“どうして生物は成長するの？”
オオエさん（大江広一郎 / 有機農家）・サッピー（武田幸子 / KIRI CAFE）・タツミン（辰巳雄基 / 作家）・ルミさん（大江るみ / アルバイト）・大江ほの・こうたろう

対話２“ひとはどうしてかんじょうをいだくのか？”
カイトくん（真継櫂風 / 小学生）・キョウちゃん（山本響子 / 小学生）・コイワシさん（小岩洋貴 / アニメ作家）・コイワシさん（小岩愛 / クラフト作家・小岩八百 / 10カ月）・タカちゃん（桂川孝裕 / 亀岡市長）・モリショウ（森川翔世 / 小学生）・ラナちゃん（品田井らな / 小学生）

対話３“なぜ人は新しい事を知ると心が動くんだろう？”
サトユカ（佐藤友佳 / アーティスト）・タエちゃん（平井妙子 / なこみの里あさひ）・タカちゃん（桂川孝裕 / 亀岡市長）・タツミン（辰巳雄基 / 作家）・ハッチン（豊田知八 / 保津川遊船企業組合代表理事・プロジェクト保津川副代表）・ヒーちゃん（豊田光 / 学生）

ファシリテーター　タンタン

運営：一般社団法人きりぶえ
松井利夫・小山龍介・武内昭・辰巳雄基・武田幸子
持田博行 / アースコンシャス

映像：撮影監督：安田光・撮影：田淵和春・音声：戸谷三紀・撮影助手：原文傑・協力：バックアップ・音楽・MA：太田昌孝

オープニング アニメーション：アートディレクター：浦上悠平・アニメーション・タイトルロゴ：小岩洋貴（コイワシ）・キャラクターデザイン：小岩愛（コイワシ）・声の出演：丹下空馬・山田由歩・タンタン・音楽・効果：太田昌孝・監督・脚本：丹下紘希

参考絵本：「ちいさな　ちいさな　めに　みえない　ぴせいぶつの　せかい」
ゴブリン書房・文／ニコラ・デイビス・絵／エミリー・サットン・翻訳／越智典子・監修　出川洋介
撮影協力　へき亭・千手寺・KIRI CAFE・企画協力：THEATRE PRODUCTS

制作・進行：河村充倫 / 株式会社GMPC
プロデュース：武内昭 / 一般社団法人きりぶえ
映像・プログラムディレクター：丹下紘希

主催：亀岡市 / かめおか霧の芸術祭実行委員会・亀岡市のみなさま

霧の芸術館

「霧に揉まれた野菜は美味い。」と言いながら、
土のついた透けるように白い大根をくれた人がいました。
今まで見たどんな白よりも白い、透明な水のような大根。
こんな美しいものを、土の中から造り出せる人が芸術家に見えました。
いや、その人こそ芸術家だと思います。
美しいだけでなく、美味しい野菜を作れる人、美しい田畑の風景を作れる人々が、
この霧深い亀岡にはたくさんいます。
その人たちは決して、自分たちの仕事を芸術とは呼ばないし、思ってもいないだろうけれど、
その美味しさや美しい風景のおかげで、
どれだけ僕たちの生活が豊かになっているかと考えると、
その仕事はとても創造的な仕事 / 芸術に思えてなりません。
かめおか霧の芸術祭では、美術や芸能に携わる異能の人のみならず、
人知れず日常に美を送り届けてくれている無言の人々の生業を、日常の芸術として見直し、
その技術や経験の底に流れる創造性を分かち合い、未来の生活の新しい基盤作りを、
亀岡の地から始め世界に伝えたいと始まりました。

今回、かめおか霧の芸術祭は「めぐるかめおか」というテーマで、
実に多様で日常的に目にしているのに、
気づかなかった芸術を鑑賞できる「霧の城下町」という〈まちなか周遊企画〉を立ち上げました。
これは亀岡のへそ、亀山城周辺の城下町の魅力を、
街の人々の生業とともに再発見していただくフィールドミュージアムとして、
様々なタイプの来訪者に、開かれた芸術空間になっています。
朝霧に沈むこの美しい亀岡盆地には、古くから多くの芸術家が、風土に根ざすように、
日々制作に明け暮れてきました。
そのことはあまり知られていませんが、その芸術家の活躍や交流によって、
国内外に張り巡らされたネットワーク上で、亀岡の芸術的ポテンシャルが年々高まっています。
この芸術祭が始まってからだけでも、海外からの長期滞在者の増加や、彼らによる作品の公開、
さらには移住者や、文化的交流人口の増加に伴い、
年々芸術活動の拠点としての環境が、整い始めたように思います。

今回で３回目を迎える亀岡ゆかりの芸術家を紹介する展示には、
この土地と新しく関わりを持ち始めた若手の作家にも声がけし〈亀岡市文化資料館〉〈大本みろく会館〉
〈みずのき美術館〉の３館連携による「霧の芸術館」が企画されました。

この企画は昨年に引き続き、新進気鋭のアートユニット、副産物産店（矢津吉隆＋山田毅）による、
綿密な作家の調査や、ヒアリングを基に〈文化資料館〉の収蔵品とも絡めて、
亀岡の歴史と、現代の対話の形として展示されました。

また、亀岡ゆかりの芸術家の展示に関しては、異能の漆芸家栗本夏樹と画家吉田伊佐が、
亀岡で制作する日本を代表するアーティストたちの最新作を、
亀岡が生んだ巨人出口王仁三郎の耀盌(ようわん）をはじめとする作品群と呼応するかのように、
〈大本みろく会館〉で展示しました。

さらにアールブリュットの作品コレクションと、
その普及活動で世界的に有名な〈みずのき美術館〉のアニュアル企画「HOME PARTY」展は、
亀岡周辺「南丹圏域」からいろんな作家がオリジナリティあふれる作品やアイディアを持ち寄って、
パーティーのように楽しく出会うユニークな交流の展覧会です。

このように「霧の芸術館」は特色のある３会場の連携によって、
いろんな奇遇や奇跡を生み出してくれることを期待して企画されました。

きっと亀岡ならできる！これからますます芸術を通した交流が活発になり、
亀岡ならではの芸術の楽しみ方が、
新しい時代の生活を豊かにしてくれることを楽しみにしています。

かめおか霧の芸術祭 総合プロデューサー　松井利夫

今年で３回目を迎える亀岡ゆかりの芸術家の展示企画。今回は「霧の芸術館」と題して、亀岡市文化資料館 / 大本みろく会館 / みずのき美術館の３会場をめぐる展覧会を開催。

霧の芸術館　会場 1

亀岡市文化資料館

白い紙に一本の線を引く。その線は最初は短く弱々しい線かもしれません。しかし、二本、三本、四本…と繋げていく事でそれは長く途切れない線となります。最初に線を引き始めたのは誰だったのか今となってはもう分かりませんが、その線は確実に現在、そして未来に続いています。

本展覧会の副題「線を引き続けるためのプラクティス」は、プロダクトデザイナーの吉行良平さんの言葉です。プラクティスとは、練習や演習のことであり、また日常的な活動。習慣的な取り組みを意味します。副産物産店と行ったワークショップのタイトルとして使われたこの言葉は、あり合わせでも不器用でも構わないから、手を動かして試作を繰り返し、作り続けるなかで完成形を目指していく吉行さんなりのラピッドプロトタイピング（製品開発で用いられる試作手法）の考え方を表したものです。

会場となるこの亀岡市文化資料館は、亀岡の人々の生活の営みと工夫が集積した場所です。その場所が持つ特性と作家の作品に取り組む日々の姿勢に、ちょうどこの言葉が重なりました。理想のかたちを目指して線を引き続けること、そしてその線を引き続けるために懸命に日々を過ごすこと、それがこの副題に込めた想いです。そして、先人から繋いできたその線の先には補助線が続いています。補助線を引くことによって少し先の未来を指し示すのも、我々芸術家の役割と言えるかもしれません。

今回、ここに集まった作家たちは皆、何らかの形で亀岡に接点を持っています。亀岡生まれや亀岡在住の作家もいれば、アトリエを構えている作家、亀岡をリサーチの対象とする作家など関わりの範囲や深度も様々ですが、皆、亀岡という土地で折々に感じたこと、考えたことをきっかけとして作品を制作しました。展示されている作品のどこかしこに亀岡の気配が散りばめられているはずです。どうぞ、それらを見つけてみてください。そして、その中にあなたの知らない新しい亀岡を発見いただければ幸いです。

霧の芸術館「線を引き続けるためのプラクティス」
副産物産店（矢津吉隆＋山田毅）

霧の芸術館 第 1 会場の亀岡市文化資料館で行われた企画展示「霧の芸術館 ～線を引き続けるプラクティス～」では、新たなゆかりの創出としてゆかりの作家枠を広げ、亀岡出身の作家だけでなくこの地に関わりを持つ多くの作家を招聘し、文化資料館にある文化的な資料と作家の作品を掛け合わせた、亀岡の風土や歴史に触れる展覧会を開催。

展示作家

Antenna
安藤 隆一郎
今村 遼佑
小松 千倫
サイネンショー
辰巳 雄基
西久松 友花
八太 栄里
副産物産店
森 太三
八木 良太
綿引 恒平

副産物産店（矢津吉隆 + 山田毅）
アーティストのアトリエから出る魅力的な廃材を " 副産物 " と呼び、回収、販売する資材循環プロジェクト。作品の制作過程で副次的に生まれてくる " 副産物 " は、アトリエの片隅に置かれいずれは捨てられる運命にあったモノたちです。それぞれの作家の感性を帯びた作品未満のそれらのモノたちに敢えてスポットを当てることで、ものの価値や可能性について改めて考える機会をつくりたいと思っています。主な展覧会は、やんばるアートフェスティバル2019-2020（沖縄）、かめおか霧の芸術祭（京都）など。京都を拠点に活動。

矢津 吉隆 / 美術家、kumagusuku 代表
1980年大阪生まれ。京都市立芸術大学彫刻専攻卒業。京都を拠点に活動。2013年からアートスペース kumagusuku のプロジェクトを開始し、瀬戸内国際芸術祭 2013 に参加。アート思考を学ぶ「アート×ワーク塾」、空き家を改修しアトリエとして貸し出す「BASEMENT KYOTO」など活動は多岐にわたる。

山田 毅 / 美術家、只本屋代表
1981年東京生まれ。2015年より京都市東山区にて「只本屋」を立ち上げ、島根県浜田市や宮崎県三股町などで活動を広げる。京都市の市営団地に美術室「第32棟美術室」を開設するなど、現在、作品制作の傍ら様々な場つくりに関わる。

副産物産店
矢津吉隆 + 山田毅
Byproducts Market
Yoshitaka Yazu, Tsuyoshi Yamada

都市のDIYリサーチプロジェクト亀岡編

本展覧会の出品作品は、副産物産店が行っている「都市のDIYリサーチプロジェクト」の亀岡編。今回は亀岡駅周辺を調査し、街の中にあるDIY（素人、専門業者でない人が、何かを自分で作ったり修繕したりすること）の事例を収集し、googleマップ上で集約したうえで、それらの技術や知識、そしてそれ自体をトレースし、再構成したものを館内看板として展示しました。

西久松 友花
Yuka Nishihisamatsu

依代 / イノコ / くよう

行事や風習の中で継承されてきた道具、祭具に焦点を当て、亀岡市文化資料館所蔵品の亥の子（藁で作られた棒状のもので収穫祭の際に用いる）、数珠操りの数珠（大勢で念仏を唱えながら回す）等を参考に制作した。また、亀岡市文化資料館は、かつて洋裁学校であったことから資料館入口に針塚（針供養塔）が残る。その場所に〈針供養〉を元にした作品を展示した。〈針供養〉には祈りや願い、感謝が込められている。

西久松 友花 / 陶芸家
1992年亀岡市生まれ。京都市立芸術大学大学院陶磁器修了。京都市立芸術大学非常勤嘱託。「祈り」と「飾り」をテーマに、宗教的象徴物や独自の文化的背景を持つ様々なものを土で象り、再構築している。焼成時に生まれる現象や土の性質と向き合いながら、自身の祈りの形を視覚化している。主な展覧会に、京都府新鋭選抜展（京都文化博物館、2016～2018/NHK京都放送局賞、2017）、京都花鳥館賞奨学金（京都花鳥館、2018、最優秀賞）、個展「拠」（ギャラリーヒルゲート、2020）など。

サイネンショー
SAINEN SHOW

亀岡のアトリエで“再燃焼”した最新のサイネンショーに加え、京丹後久美浜の穴窯で再燃焼させたものを展示。何の手も加えずに焼く、部分的に釉薬をかけて焼く、窯詰めの積み方を工夫する。融けて形が崩れるまで複数回焼いた結果、窯の中では様々な「窯変」が生まれます。その上にさらに金彩銀彩を施したもの、金継ぎ、拭き漆をしたものなど、伝統的な工芸技法を駆使し、歪み、割れ、ぶく、くっつき、等々、焼き物の世界では“キズ”といわれるものたちの、新たな表情をお楽しみください。

陶芸家 松井利夫の呼びかけにより、2011年の震災を契機に、資源やエネルギーの自給自足、さらには持続可能なアートコミュニティー形成の実験として始まったプロジェクトです。これまで250名以上の有志によって、廃棄される陶磁器を回収し、古民家の解体材や端材を燃料に穴窯で再び超高温で焼く。一見すると非合理な行為によって、溶融し歪んだりひっついたり、上絵が消え下絵が流れ、その上に美しいビードロがかかったり、様々な窯変が生まれ、陶磁器の新たな一面を浮き彫りにする活動を展開しています。

Antenna（市村恵介 + 田中英行）
京都を拠点に活動するアーティスト・コレクティブ。日本の歴史と文化より着想し、多様なメディアを用いて創作活動を行う。主な展覧会に、2013「Power, Where Does the Beauty Lie」SOMA 美術館（ソウル）、2012「文化庁メディア芸術祭香港展 2012 “PARADE”」（香港）、「六本木アートナイト 2012」（東京）等がある。文化振興事業のNPO法人 Antenna Mediaを立ち上げた後、それぞれの活動領域にてより一層幅広い社会的芸術活動を行っている。

市村 恵介 / 美術家
京都市立芸術大学美術科彫刻専攻卒業、その後国内外での様々な展覧会に参加。様々なワークショップの他、近年は子どもたちの美術教室や福祉施設でのアート活動支援、地域団体シガーシガの立ち上げなど、美術を軸に広義での福祉、公益的な活動を展開している。

田中 英行 / 美術家
亀岡生まれ、Qe to Hare Inc. CEO、京都市立芸術大学大学院 MFA 修了、アーティストとして世界12ヶ国45都市、60以上の美術館、ギャラリー、アートセンター、芸術祭などに作品出展。近年はボーダレスにアーティストの視点から様々なスタイルでクリエイティブな事業を展開する。

Antenna
市村恵介 + 田中英行
Antenna
Keisuke Ichimura, Eikoh Tanaka

AOYOMI

本作品は青い光と死の関係に着目し展開された作品群であり、タイトルの YOMI は黄泉を意味している。インスタレーションは亀岡のプロジェクト保津川に賛同した人々が回収した川のゴミとなったモノ、Antenna の作品で解体された家屋の端材から作られた彫刻「Istoría」、田中英行の作品で取り壊されゆく家屋の壁面をシルクプリントした「壁」、能楽で異界より現れる人物が纏う着物柄をサンプリングした平面作品「yu-gen」などから構成されており、これまで Antenna がテーマとしてきた世界の内と外、既知と非認知の境界を行き来しながら、消えゆくモノと私たちのライフスタイルの関係性について再考させる。

安藤 隆一郎

Ryuichiro Ando

安藤 隆一郎 / 染色美術家
身体0ベース運用法代表、水中展覧会AQUART代表。1984年京都生まれ。京都市立芸術大学工芸科染織専攻修士課程修了。京都市立芸術大学染織専攻・プロダクトデザイン専攻非常勤講師。京都にて共同スタジオ凸倉庫設立し、活動拠点とする。蝋染作品の発表を行いながら、奄美大島の海中にて作品展示をする「水中展覧会AQUART」(2010～2019)の開催。工芸作家のコレクティブ「APP ARTS STUDIO」として「瀬戸内国際芸術祭2016- 夜なべのみや (2016)」「工芸の家 -KYOTO ART HOSTEL kumagusuku- 染の板塀 (2014)」に参加する。その他様々な活動を通して自然や手仕事、住環境などといった人間を取り巻くものことと「身体」関わりについて考える。2016年に独自の身体メソッドとして「身体0ベース運用法」の活動を開始する。

身体０ベース運用法（しんたいぜろベーすうんようほう）。染色作家 安藤隆一郎が「身体」と「もの」との関わりから生まれる感覚、運動機能を「ものづくりの視点」から「０」から見直し、人間が本来持っている「身体」の運用法を見出す試みです。その「身体」とは医学やスポーツといった専門的なものではなく、私たちの身の回りにある「身体」です。身体0ベース運用法はアートが持つ多様なツールを使って翻訳し、展示やワークショップ、など様々な活動を通して身体の消えゆく未来へ向けてその可能性を問い直しています。

日本身体遺産　保津川下り編

保津川に出会った。保津川は平安京造営の頃より物流経路として発展し、現在は観光船保津川下りへと続く 水運文化の舞台。そこでは時代の変化とともに物流する身体が形を変えて受け継がれてきた。私は船頭の操 船技術に見られる身体に魅せられて、それを「日本身体遺産」として残すべく保津川下りに弟子入りした。櫂引きを教わり、陸で練習するためのトレーニングマシーンを作り、常に保津川を想い、川に出て嵐山まで 下れるようになるまで漕ぎ続けた。本物の船頭には到底及ばないであろうが、櫂引きの身体技法とその身体 風景を我が身に刻み、そして作品へと記録する。

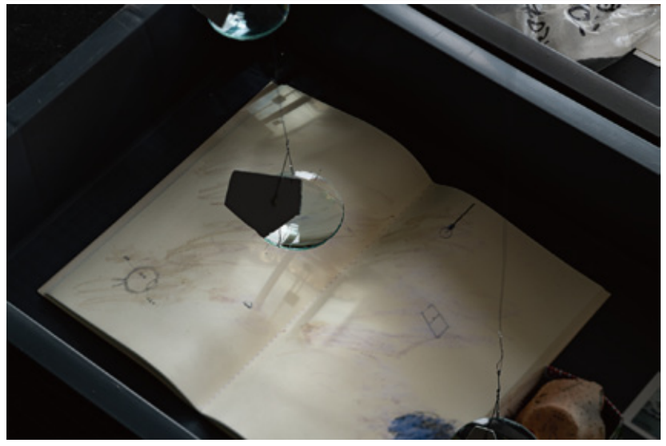
綿引 恒平

Kohei Watahiki

千年前と今をつなぐ篠窯・焼き物プロジェクト

全国にある須恵器の窯の中でも「形が特殊な三角窯」。そのほとんどが亀岡にあることを知っていますか？考古学者と陶芸家が集まり 1000 年前の窯を再現するプロジェクトを立ち上げ４年。
土探しから始まったこの実験考古学は、次々に新たな発見と疑問を生みました。定説は再考を求められ、より想像力を必要とする世界に。そう、遺跡では発掘されないものこそ当時の人間の考えていたことであり、それを知りたいと思うのです。それでも、破片ひとつ、土くれひとつから私たちは想像するのです。「こんな窯あったら面白いな！」って。

綿引 恒平 / 陶芸家
「こどもアトリエてくてく」代表、陶磁器スタジオ「WATAKAMA/わたかま」代表、「千年前と今をつなぐ篠窯・焼き物プロジェクト」プロジェクトリーダー。1982年三重県生まれ。京都市立芸術大学大学院修了。亀岡・篠にて造形教室「こどもアトリエてくてく」設立。市内を中心にアートイベントを多数開催。暮らしを変える器を提案したいと陶磁器スタジオ「WATAKAMA/ わたかま」を設立。須恵器小型三角窯の再現プロジェクトを立ち上げ、陶芸家 × 考古学者での実験考古学を始める。現在、亀岡・千代川町北ノ庄に拠点を移し古民家を改修しながら活動中。



今村 遼佑

Ryosuke Imamura

今村 遼佑 / 美術家
1982年京都生まれ。2007年京都市立芸術大学大学院彫刻専攻修了。日々過ごすなかで記憶に残ってくるものや、ふとした気づきを元に物事の確かさと不確かさを探求するような作品を手がける。2016年1年間、ポーラ美術振興財団の助成を受けてワルシャワに滞在し、帰国後、亀岡にスタジオを構える。近年の展覧会に「いくつかのこと」(個展、Finch Arts、2020)、「セレブレーション - 日本ポーランド現代美術展」(京都芸術センター / 京都、2019) など。

ねじれの位置と、木漏れ日

高校生の頃、数学の授業で空間上のねじれの位置に存在する直線同士はけっして交わらないと習った。女子技芸専門学校として建てられた建物がやがて文化資料館として使われる、古い土器とそれを包む新聞紙に書かれた記事、そこに一時的に置く自分の作品、他の作家の作品。それらは、ねじれの位置にある直線の図を思い起こさせる。だがもし、その図の斜め上方に光源を置いたとすれば、地面に落ちる影は重なりあうだろう。よく晴れた日に林の中を車で抜けるとフロントガラスで光と影が交差するように、それらは受容する私たちの中で静かに明滅するのではないだろうか。

森 太三

Taizo Mori

関係のベンチ　亀岡

亀岡文化資料館の屋上は、階段を上がると視界がひらけ、新しくできたスタジアムの向こうに牛松山が見渡せる、亀岡の空気感をつよく感じられる空間です。そこにベンチとしても機能する直方体を並べて設置し、ゆっくりと腰掛けながら、この場所で風景を眺め、時間を過ごすことで、様々な関係を体感していただければと思います。

森 太三 / 美術家
1974年大阪生まれ。社会福祉法人松花苑みずのきアトリエ講師・みずのき美術館インストーラー。京都精華大学・成安造形大学非常勤講師。1996年の初個展以降、個人の身体感覚によって生みだした小さなカタチを集積させて、展示空間内に架空の風景を表出させる作品を制作。近年は、端材や設営資材を転用して再構成する作品を発表している。また、2014年に「STUDIO 森森」を設立し、様々な関係性から空間を立ち上げるプロジェクトも展開。現在、亀岡市内のアトリエにて制作を行っている。

辰巳 雄基

Yuki Tatsumi

辰巳雄基 / 蒐集家
1990年奈良県生まれ。京都芸術大学(旧京都造形芸術大学)卒業後、島根の離島海士町での生活を経て日本全国の旅をする。福祉施設で働くことをきっかけに亀岡に移住。地元の人たちから集めた本から始まった「山成」という小さな古本屋を営む。日本全国の飲食店から集めたもので「ジャパニーズチップ展 - テーブルの上で見つけた日本人のカタチ」、漂流物の即売会「たつみの海でひろってきたもの店(展)」、路上から集めたもので「star dust」など蒐集やリサーチでの発見をもとに展覧会も行う。共著に「小屋の本」(きりぶえ)著書に「箸袋でジャパニーズチップ」(リトルモア)がある。

どけもの資料館

この小屋、そしてこの中にあるものは全て移築してきたもの。
亀岡市曽我部地域では今現在、ほ場整備が行われており
たくさんのものや、生物たちが機械により掘り起こされています。
邪魔者になるのは
そこに生えていた木や　地面に埋まっている石や　建てられている小屋
そんな「どけもの」たちを、ここに避難させ展示しました。
うつりかわる季節とともに、小屋のある風景は消えようとしています。

八木 良太

Lyota Yagi

Requiem for needles

亀岡市文化資料館の建物はかつて、昭和59年に閉校した亀岡市立女子技芸専門学校という、和洋裁の専門学校であった。資料館入口には針塚があり、また針供養という風習にもあるように、日本人にとって針は想いの込められた特別な道具だった。今回、文化資料館に残されていた針を、レコードプレーヤーの針の代用として用いて、音を再生させる装置を制作した。

八木良太 / 美術家
1980年愛媛県生まれ。京都芸術大学(旧京都造形芸術大学)空間演出デザイン学科卒業。京都市立芸術大学大学院美術研究科博士(後期)過程彫刻専攻単位取得満期退学。京都芸術大学(旧京都造形芸術大学)准教授。見たいものしか見ない・聞きたいことしか聞かないといった、我々の制限的な知覚システムあるいは態度に対する批判的思考をベースに作品制作を行う。既製品を用いて作品を構成し、その現れによって人間の知覚やそれを利用した工学的システムを浮かび上がらせるような作品を発表している。音響作品をはじめとして、オブジェや映像、インスタレーションからインタラクティブな作品など、表現手法は多岐にわたる。

八太 栄里
Eri Hatta

八太 栄里 / 美術家
1989年亀岡市生まれ。2011年大阪デザイナー専門学校研究科卒業。ありふれた景色を拾い、絵画として成立させることで日常の見方を変え、新たな思考を働かせるきっかけを展開する。時の経過の中で取り残され、忘れ去られていくものが放つ存在感に注目し、その土地の気配や記憶、そこにまつわる人の記憶や魂など、目に見えないものの形を想像し画面に現すことを目指している。国内を中心に個展・企画展・アートフェアに出展するほか文芸誌などのイラストレーションも手がける。

愛宕灯籠のある風景

亀岡市の北東、京都市との境には標高 924 メートルの愛宕山がそびえている。火伏せの神として知られる愛宕神社が頂上に鎮座し、京都の人たちは「あたごさん」と親しみを込め、火除けを祈願する愛宕信仰は暮らしに根付いている。
亀岡市内には愛宕灯籠が 200 基以上点在しており、昔から各村々で「火とぼし」という習俗が続けられてきた。今では火とぼしの火も消え、形だけ残った愛宕灯籠の姿も多いが、地域に根差す信仰の形を称えて「愛宕灯籠のある風景」として描いた。

小松 千倫
Kazumichi Komatsu

小松 千倫 / 音楽家、DJ、美術家
1992年高知県生まれ。京都市在住。クラウド化していく身体に固有の残渣やノイズに注目し、それらの伝承や保存の形態の調査と制作の研究を行っている。これまでにバルセロナ、ロンドン、東京、ニューヨーク、サンフランシスコ、ミラノ等、様々なレーベルやパブリッシャーより多数の音源をリリース。また多数のアーティストの来日公演をサポートしている。

illuminator (Kameoka)

本作では、土地を文・化する (ことばにする、かたちにする) こととその方法を、亀岡に通った数年間で得たいくつもの物語の登記、伝承、変異、北の海へと繋がる縦貫道の入り口に見つけ出し、その生成と減衰のはしくれを光とかたちに圧縮しています。ここで私は、文化財がかつては無名であった場所までナビゲートを試みます。

霧の芸術館　会場 2

大本みろく会館

SPACE MEMORY　H≒2500　W≒5900　D≒5900 ㎝

西野 康造

KOZO Nishino

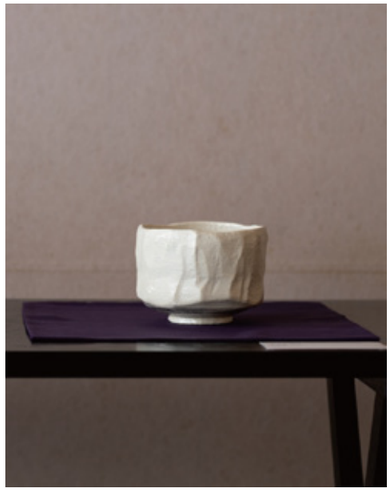
1951　兵庫県尼崎市に生まれる
1977　京都市立芸術大学彫刻専攻科終了
2001　中原悌二郎賞　優秀賞
2002　長野市彫刻賞
2011　本郷新賞
2013　NY 4WTC ロビーに作品設置
2014　京都美術文化賞
2019　京都市文化功労者表彰

展示作家

大石 早矢香
奥村 博美
金重 尹郎
北山 善夫
栗本 夏樹
佐々木 虚室
出口 鯉太郎
西野 康造
ベリー マキコ
松井 利夫
吉田 伊佐
渡辺 信喜

霧の芸術館 第２会場の亀岡城址にある大本みろく会館で行われた企画展示では、これまでにも本芸術祭で出展を重ねてきた亀岡在住の芸術家を中心に、日本画、洋画、陶芸、漆芸、彫刻などさまざまな作家の作品が並んだ。亀岡の自然や環境が生み出した多くの芸術作品に目で触れながら、この地のもつ魅力や個性を感じてほしい。

左より　窯変黒茶盌
黒茶盌



白茶盌

佐々木 虚室

KYOSHITSU Sasaki

1964　京都府亀岡市に生まれる
1980　京都市立銅駝美術工芸高等学校陶芸科に入学
1983　大阪芸術大学芸術学部工芸学科に入学
1986　京都府立陶工職業訓練校に入学
1987　京都府亀岡市にて茶の湯陶芸楽焼制作開始
1996　紫野大徳寺五百二十世住持同寺第十四代管長福富雪底老師より窯名、帰来窯を拝受以来、帰来窯茶陶の制作に励む
2003　大丸博多天神店にて初個展以降、全国各地にて個展開催
2016　台湾台北市にて海外初個展開催
2019　パリ、アムステルダムにて個展及びワークショップ開催

左より　**鉄絵しのぎ茶碗**　11.5x11.5x8.5 ㎝
紅白梅文茶碗　11.5x11.5x8.5 ㎝

金重 尹郎

TADAO Kaneshige

1947　岡山県備前市生まれ
　　５歳から18歳までを亀岡で過ごす
1969　東京芸術大学彫刻科卒業
　　以降各地で個展、グループ展を開催する
1995　阪神淡路大震災によりアトリエ全壊、
　　以降制作活動を休眠する
2009　岡山県高島屋にて陶芸展　（以降 隔年にて同所で個展開催）
2010　田部美術館「茶の湯の造形展」入選（'11、'19）
2020　亀岡に制作拠点を移す

粉引馬形徳壺　23x11x27 ㎝

左より　**備前小壷**
備前小壷

信楽小壷　7.1-7.3 ㎝

出口 鯉太郎

KOITAROU Deguchi

1960　京都府亀岡市に生まれる
1983　金重 慊氏の元で陶芸の道に入る
1986　京都市立工業試験場陶磁器研修専科修了
1995　日本橋三越本店にて初個展
その後、高島屋京都店、大阪店、岡山店、
名古屋松坂屋本店等にて個展
金重一門展やギャラリー等で個展やグループ展を開催

左より　**ひょうたんオブジェ 2021**　約 W100×D100×H130 ㎜
漆石
ひょうたんオブジェ 2021　約 W100×D100×H130 ㎜

栗本 夏樹

NATSUKI Kurimoto

1987　京都市立芸術大学大学院美術研究科漆工専攻修了
1995　日本の現代工芸 - 伝統と前衛 - 展
（ヴィクトリア＆アルバート美術館 / イギリス）
1996　京都府亀岡市に移住
2001　VISION 展　（豊田市美術館 / 愛知）
2011　PLAY / PRAY あそぶ美術、おもう美術
（豊田市美術館 / 愛知）
2017　HARD BODIES　（ミネアポリス美術館 / アメリカ）
2018　CONTEMPORARY LACQUER FROM JAPAN
（ESH Galler / イタリア）
2019　HARD BODIES　（モリカミ美術館 / アメリカ）
現 在　京都市立芸術大学美術学部漆工研究室 教授

星のかけら A　W450×D30×H900 ㎜

左より　**上谷　新緑　（芦生の森）**　30 号　油絵
上谷　新緑の頃（芦生の森）　30 号　油絵

上谷　新緑 II　（芦生の森）　6 号　鉛筆デッサン

吉田 伊佐

ISA Yoshida

1959　京都府南丹市日吉町に生まれる
1984　京都市立芸術大学美術学部（油画専攻）卒業
1986　日吉ダム建設により亀岡市千代川町に集団移転
1999　これより全国の百貨店、画廊で個展を多数開催する
2011　日展特選受賞
「時を超えて ～静物と風景画展」（ホキ美術館）
ARTEXPO NEW YORK（ニューヨーク）
Lineart 2011（ベルギー）
2012　「現代の写実 ホキ美術館名品展」（ホキ美術館）
2013　「光と風をかんじて・・展」（ホキ美術館）
2014　「吉田伊佐展 ～日本の原風景を追って～」
（南丹市日吉町郷土資料館）
2016　「吉田伊佐展 ～四季の移ろい～」（南丹市立文化博物館）
2019　「芦生の森 ～森の魅力を探る～」（南丹市立文化博物館）
現 在　日本美術家連盟会員、京都府亀岡市千代川町在住

左より　寒牡丹　30F　H72.7xW91.0 ㎝
椿　40P　H100.0xW72.7 ㎝
紅枝垂桜　30P　H91.0xW65.2 ㎝

渡辺 信喜

NOBUYOSHI Watanabe

1941　京都府京都市に生まれる
1964　京都市立芸術大学日本画科卒業
1966　農鳥社入会　山口華楊に師事
1970　日春展奨励賞（'71）日春賞（'72）日展特選（'84）
1976　京都府亀岡市に移住
1984　横の会 結成（'93 解散まで出品）
1998　NEXT 結成（'07 解散まで出品）
2012　京都府文化賞 功労賞
2015　改組新第 2 回日展 内閣総理大臣賞
2018　京都市文化功労者
現 在　日展理事、親日春会会員、京都精華大学名誉教授

秘めリンゴ -chain-　27 x 26 x H28 ㎝　半磁土

大石 早矢香

SAYAKA Oishi

1980　京都府亀岡市生まれ
2004　京都市立芸術大学美術学部陶磁器専攻卒業
京都市立芸術大学 2003 年度制作展 同窓会賞（京都市美術館）
たち吉クラフトコンペ「京都陶芸の新しい芽」優秀賞受賞
2014　第43回長三賞常滑陶業展「くらしのやきもの展」長三賞
（INAX ライブミュージアム / 愛知 他）
2015　マイヤー × 信楽大賞展 銀賞
（滋賀県立陶芸の森、マイヤーガーデン/アメリカ）
京展・館長奨励賞（京都市美術館）
第32回長三賞常滑陶芸展・自由造形部門 長三賞
（愛知県陶磁美術館 他）
2016　現在形の陶芸 萩大賞展Ⅳ 佳作
（山口県立萩美術館、浦上記念館）
2017　第12回パラミタ大賞展ノミネート（パラミタミュージアム / 三重）
2019　第23回岡本太郎現代芸術賞ノミネート
現 在　京都精華大学芸術学部造形学科陶芸専攻　非常勤講師

tempo azzurro 77963-82750

松井 利夫

TOSHIO Matsui

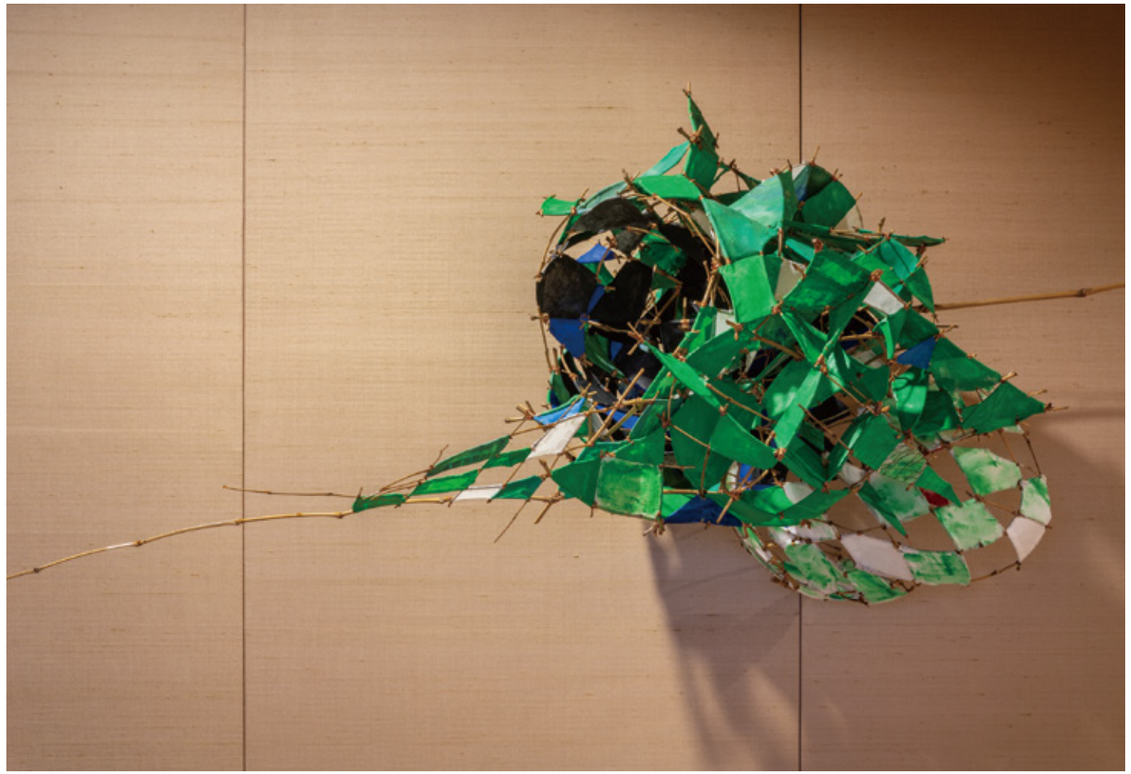
1955　大阪市生まれ
1980　京都市立芸術大学陶磁器専攻科修了
1982　第40回ファエンツァ国際陶芸コンクール、
　　グランプリ受賞（イタリア）
2003　第2回京畿道世界陶磁ビエンナーレ、優秀賞（韓国）
2007　亀岡に築窯
2013　「サイネンショー」（VOICE GALLERY / 京都）（'14）
2015　第14回カルージュ国際陶芸ビエンナーレ、
　　ARIANA 大賞受賞（スイス）
2016　第29回京都美術文化賞受賞
2018　「Cerámica japonesa」Galería Álvaro Alcázar（スペイン）
2019　第37回京都府文化功労賞
現 在　京都芸術大学 教授、IAC 国際陶芸アカデミー 理事、
　　滋賀県立陶芸の森 館長

縄文式緊縛器　各30×30×H35 ㎝

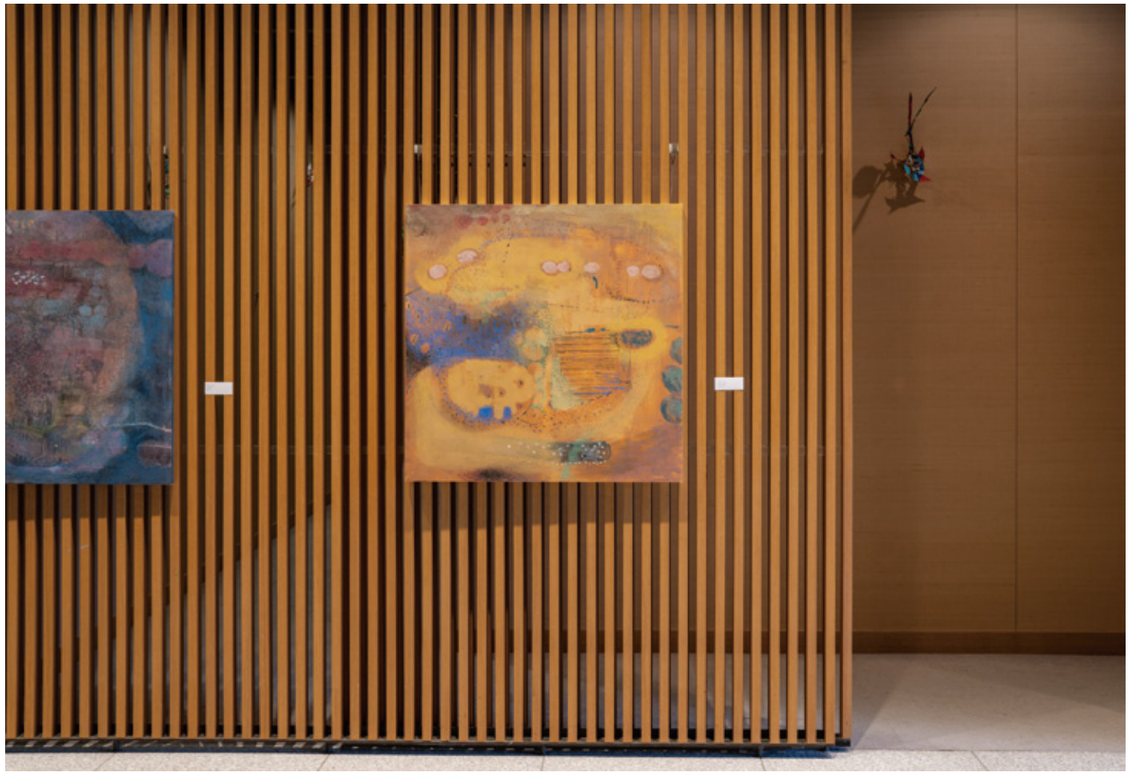
奥村 博美

HIROMI Okumura

1953　京都府京都市生まれ
1978　京都市立芸術大学陶磁器専攻科修了
1979　京都府亀岡市で作陶
1990　第41回京都工芸美術展にて大賞受賞（'92 優秀賞受賞）
1991　焼き締め陶公募展にて記念賞受賞
1994　淡交ビエンナーレ茶道美術公募展にて奨励賞受賞
　　亀岡市美術展にて市長賞受賞（'08 記念賞受賞）
2004　京都美術作家協会展にて奨励賞受賞
1996～京都精華大学芸術学部造形学科陶芸専攻 教員
2020　京都精華大学を選択定年退職
現 在　新たな技法を取り込み技法に溺れず技法に寄り添い
　　時には弄んで生まれる姿を模索中



濃厚接触　140 x 262 x 85 ㎝

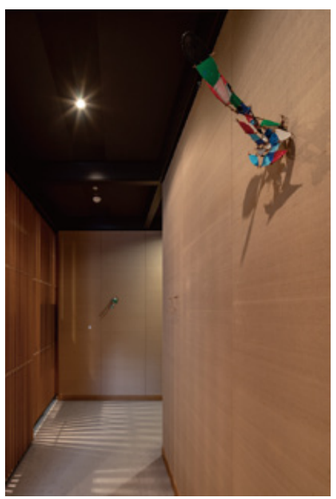


左より　**murasaki**　90 x 90 ㎝
やわらかな時　90 x 90 ㎝

北山 善夫

YOSHIO Kitayama

1982　第20回 ヴェネツァ・ビエンナーレ　（イタリア）
　　カーネギー インターナショナル　（米国）
　　バングラデシュ・ビエンナーレ ゴールドメダル賞
1992　日本芸術大賞
　　滋賀県文化奨励賞
1998　京都府亀岡市に移住
1999　「現代絵画の展望展」東京ステーション賞 受賞
2011　京都府文化功労賞受賞
2018　京都市文化功労者受章



そうは言っても　46 x 17 x 23 ㎝

ベリー マキコ

MAKIKO Berry

1975　京都府亀岡市生まれ
1998　成安造形大学造形美術科日本画クラス卒業 翌年研究生
1999　渡米　メトロポリタン美術館東洋絵画修復室フェロー
2008　帰亀　のびなびあーと開講
2012　第四回 京都 日本画新展 大賞　美術館「えき」KYOTO
2016　第二回 藝文京展 ～現代の平面・ひかりとかたち～ 優秀賞
　　京都芸術センター
2019　京都日本画新展 in 二条城
　　～100人の画家・嵯峨野線を旅して～
　　原画展「京都・亀岡 暮らしとところ」KIRI CAFE
2020　個展「風と土とベリー vol.1-yorisoi-」村田画廊 / 京都
2021　個展「ミ・ノ・リ・ア・ル」天野画廊 / 大阪
現 在　京都日本画家協会会員、Willpower Arts Institute 代表

霧の芸術館　会場３

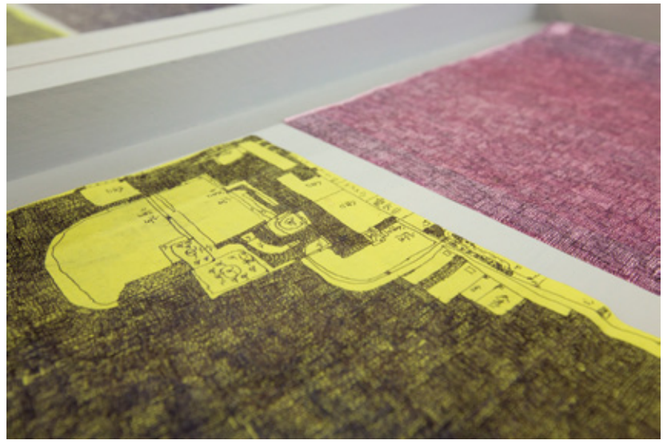
みずのき美術館

霧の芸術館 第３会場のみずのき美術館は、母体の障害者支援施設みずのきの創立５年目に開設された絵画教室から生まれた作品の所蔵と展示、そしてアール・ブリュットの考察を基本に据えた美術館。今回は、「めぐるかめおか」の関連企画展として、作家それぞれに作品やアイディアを持ち寄って、パーティのように楽しく出会うことのできる展覧会・みずのき美術館アニュアル企画「HOME PARTY」展を開催。

参加施設

ヴィレッジれん
京丹波町共同作業所 本所
京丹波町共同作業所 瑞穂支所
京都府立丹波支援学校
かめおか作業所
学びの森
社会福祉法人 松花苑 かしのき

共催：きょうと障害者文化芸術推進機構（京都府）
協力：日本キリスト教団 丹波新生協会 園部会堂



みずのき美術館のアニュアル企画「HOME PARTY」展は、それぞれに作品やアイディアを持ち寄って、パーティーのように楽しく出会うことのできる展覧会。
今回は、亀岡市・南丹市・京丹波町（この二市一町で「南丹圏域」と言ったりします。）で出会った、オリジナリティ溢れるこだわり、ユニークなコミュニケーション、工夫が凝らされた暮らしの数々を、まちの小さな美術館と教会で展示。「HOME PARTY」展に来ると、新しいまち「なんたうん」が見えてくるかもしれません。

PART 2

霧の城下町

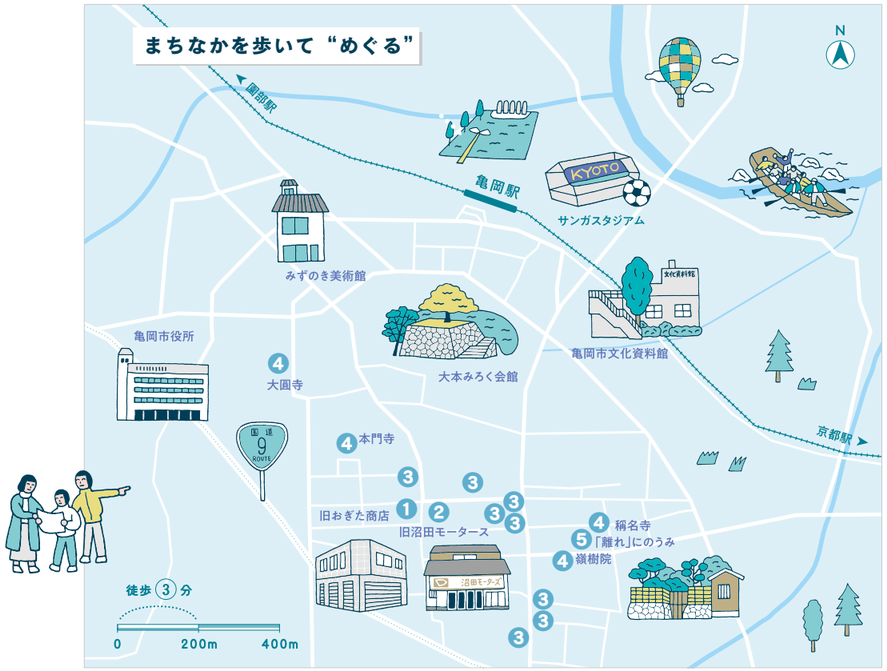


Illustration : ASANO PEKO

まちなかを歩いて“めぐる”周遊企画の舞台となるのは、亀山城跡を中心とした城下町エリア。芸術祭の拠点となるインフォメーションセンターが設置され、招聘アーティストによる企画展示、ワークショップや作品販売、亀岡文化交流協会による発表会など、まちなかをめぐる催しを開催。

❶ 旧おぎた商店

イベント期間中、空き店舗の旧おぎた商店がインフォメーションセンターとなり、カフェスペース「no-mu cafe」も併設。会場案内やイベント情報の提供だけでなく、亀岡ゆかりの作家の作品販売や展示、厳選された亀岡土産を販売。土日祝には KIRI² 芸術大学ワークショップも開催。多様な機能を持つ空間となり、人々が集える場となった。

❸ 城下町のショーウィンドウ

亀岡市内各地で日々、ものづくりを行う 8 組の作家、職人、農家、料理人の作品や道具が、城下町のショーウィンドウに展示された。旧おぎた商店内で展示の Parallel laboratory「parallel perspective」、小 久保寧「parallel phenomenon いま、現れる感性。」がそれぞれに関連しあい、まちなかを周遊して楽しむ仕掛けを作り出した。

❷ 旧沼田モータース

H 商店街に点在する特徴ある標識をモチーフにした Parallel laboratory による作品「Parallel-H」と、霧をイメージして作られた xorium による「[Zi:].framed」が展示され、イベント期間中は空き店舗が展示空間へと生まれ変わった。

❹ 稱名寺、嶺樹院、大圓寺、本門寺

2020 年で創立 40 周年を迎えた亀岡文化交流協会とのコラボ企画として、お琴や三味線、日本舞踊など伝統の技を城下町地区に点在する 4 つの寺院で趣のある発表会を開催。

❺ 「離れ」にのうみ

旧亀山城下町の一角にある築百年の古民家を改修した宿泊施設で、亀岡の歴史や文化を後世に継承しながら新しく生まれ変わった空間を一日限定で一般公開し、振る舞い茶と、くらしゴトLaboによる亀岡地域に古くから伝わる「あみ笠だんご」の販売も催された。

期間中の土日祝にはインフォメーションセンター内にミニマルシェのような KIRI ショップも登場

KIRI ショップ

bluff（シルクスクリーン）｜cafe selen（お菓子）｜Glass Studio Calore（ガラス）｜ogawaya（お菓子）｜shurint（服）｜WATAKAMA（陶器）｜亀岡福祉会（お菓子）｜かわかみ茶葉店（ブレンドハーブティー）｜つきよみ（お菓子）｜森太三（木工）｜吉田欣司（木工）

亀岡在住のアーティストが手がける no-mu の POP-UP CAFE が併設

no-mu cafe

丁寧に一杯ずつハンドドリップするスペシャリティコーヒー専門店・旅の音焙煎所とのコラボで生まれたオリジナルブレンドのコーヒーやハーブティなどのほか、オリジナルのエコバッグなども販売。

まちなか周遊企画

旧おぎた商店

1 F

インフォメーションセンター

KIRI ショップ
no-mu cafe

インフォメーションセンター 入口

厳選された亀岡土産、亀岡ゆかりの作家の作品を販売

めぐる亀岡土産

まちなか周遊企画

旧おぎた商店

2F

KIRI² 芸術大学
企画展示

亀岡ゆかりのアーティストたちとともに、亀岡だからこそできる誰もが芸術を身近に感じることのできるワークショップ

KIRI² 芸術大学

亀岡の自然や文化に触れる人気講座を中心に開催。

MYバッグから始めるMYブランド

クレイアニメで“動く”オリジナルスタンプ

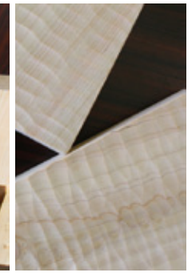
植物標本をつくろう（会場：大本本部）

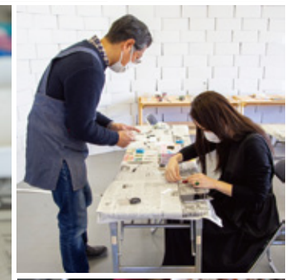
全７講座

クレイアニメで“動く”オリジナルスタンプをつくろう　コイワシ
オリジナルデザインを製版・プリント〈MYバッグから始めるMYブランド〉　bluff
色漆でつくる霧景色のお皿　安井友幸・大矢一成
自分の色を組み合わせて“色相の椅子”をつくろう　森太三
植物標本をつくろう！　澤田徹（花明山植物園）
自然の艶を纏った“漆石アクセサリー”づくり　栗本夏樹
手彫りでつくるヒノキの鍋敷　吉田欣司

色漆でつくる霧景色のお皿

手彫りでつくるヒノキの鍋敷





「かめおか」
YUKO KIMOTO
企画展示

「parallel perspective」
Parallel laboratory
（中里洋介・山野恭稔）

企画展示

亀岡で活動する作家の制作過程で意図せず生まれた端材をモチーフに、そこから見えるもうひとつの世界を表出させた作品。霧の芸術祭のショーウィンドウ展への誘導の役割も兼ねたインフォメーション型展示。

まちなか周遊企画

旧おぎた商店

倉庫

企画展示

「parallel phenomenon
いま、現れる感性。」
小久保 寧

企画展示

亀岡に暮らす作り手の製作風景を同時刻に記録し映像化。自分と同じ１秒を、他人 - ヒト - はどのように感じ、迷い、選び、形にしながら生きているのか。平等に存在する時間を共通軸として、均一ではない、あるがままの日常に感性の視覚化を試みた。

まちなか周遊企画

旧沼田モータース

企画展示

[Zi:].framed
xorium
（竹川諒・中矢知宏・中村慎吾）

企画展示

「霧」という質量を感じにくい存在を、リアルとデジタルの境界のない概念と捉え、物理的な奥行方向の表現が可能なデバイスとデジタル映像で表現するインスタレーション。映像により表現された " リアル " な霧を通して、「霧」という存在について見つめ直した。

まちなか周遊企画

旧沼田モータース

「Parallel-H」
Parallel laboratory
（中里洋介・山野恭稔）

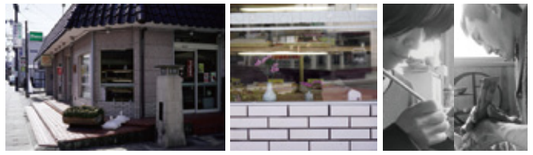
企画展示

新たにモノを創らずとも街中にはふとした気づきで見えてくるユニークな世界がある。「Parallel - H」は、視点転換によって既に存在する意識の外側の世界を再表出させる試みとして、今回は「城下町の細い道が連なる地割が生んだいびつ＝標識」に焦点を当てた展示を行った。亀岡の第一印象は、「道が細いのに交通量が多いこと」だった。ここに妙な違和感を感じた。亀岡は城下町であり、それゆえ H 商店街を中心とする「道」は当時の地割を守ることで拡幅されることはなかった。そこに利便性から車社会が普及。だから道が細いままで、交通量が多いのだと気付いた。そのことを意識しながら街を巡ると、その特徴的な歴史背景から生まれた亀岡ならではの様々なサイン（標識）が目につき始めた。サインは設置当時、住民にとって意識する存在だが、生活していくうちに慣れが生じ、結果的には意識の外側へ追いやられる。
【Parallel-H】はその意識の外側を描き出すことでもうひとつの亀岡を浮かび上がらせる実験。

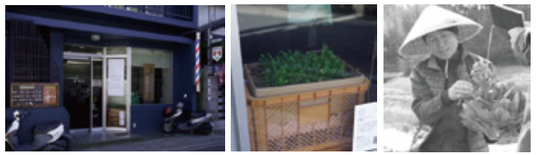
まちなか周遊企画

市内各地

霧の芸術家 ショーウィンドウ展


❶ 西脇製パン ポワール × 陶工房 しの平窯

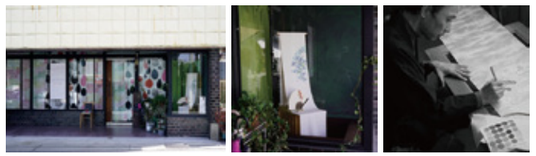
❷ ミヅツラ電器 × 斎田石材店


❸ BARBER オガワ × かたもとオーガニックファーム

❹ らくだ薬局 ×Glass Studio Calore

❺ スペイン食堂サルテン × 長岡銘竹株式会社

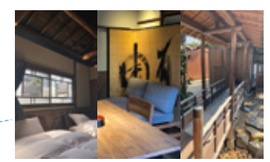
❻ カフェタイム亀岡店 × 京都ほづ藍工房株式会社


❼ saji× 細井友禅

❽ 古布井尻 × 京料理 松庄

アーティスト角銅真美、小松千倫による期間限定サウンドアート

開催期間中「霧の城下町」の特別プログラムとして、毎年 10 月に城下町地区で開催される「亀岡祭」の伝統的な曳山囃子の音源を、かめおか霧の芸術祭でライブパフォーマンスを重ねてきた角銅真実とサウンドアーティストの小松千倫がリミックスして配信。亀岡祭のサウンドアートを聴きながら城下町の散策を楽しむ試みも。



特別内覧会を開催
古民家を活用した
一棟貸切施設「離れ」にのうみ

亀岡文化交流協会
創立 40 周年記念発表会

今年で創立 40 周年を迎える亀岡文化交流会とのコラボ企画として城下町地区に点在する４ヶ所の寺院で、趣のある発表会を開催

創立 40 周年を迎えて

亀岡文化交流会は「亀岡市民の芸術・文化活動の高揚を図り相互理解と交流を行うこと」を目的として昭和 56 年に創立されました。この間、毎年舞台展示発表を開催し、多い時には数十グループが所属する、市内でも有数の文化団体に発展してまいりました。現在は 18 グループ、約 260 名の会員が活動しております。

今年は創立40周年に当たることから「かめおか霧の芸術祭」との共同開催という形で「亀岡文化交流協会創立 40 周年記念発表会」を開催することになりました。各会場でそれぞれの発表をご覧いただき、少しでも芸術、文化に触れていただければ幸いです。

亀岡文化交流協会 会長　栗山初美

まちなか周遊企画

嶺樹院

地歌舞 古澤流 侑昆会
地歌舞

惠琴会
邦楽演奏

まちなか周遊企画

大圓寺

千寿会
邦楽とフルート演奏
朗読

和の会
邦楽とバイオリン演奏

まちなか周遊企画

稱名寺

和芳会
邦楽演奏

まちなか周遊企画

本門寺

正派若柳流 吉乃富会 日本舞踊
＋泉乃会 三絃

市役所展

亀岡市役所１階
エントランスホールでは
「かめおか霧の芸術祭 ×
X（かけるエックス）」の
一貫として行っている
「アート× 行政」プロジェ
クトの成果を展示・紹介。

アート × 環境
「エコバッグ コレクション」
市内の事業者が独自に制作している
オリジナルのエコバッグを展示

SNS ４コマ漫画配信・
環境ポスター

2021年から始まったプラスチック製レジ袋の提供禁止に合わせて作られた環境ポスターとSNS４コマ漫画。

アップサイクルブランド
HOZUBAG

亀岡の自然環境からインスピレーションを受けて生まれた HOZUBAG は「水が海から雲になり、やがて雨として山に降り、川を流れて海に着くように、とても当たり前で自然な循環を HOZUBAG がささやかに生み出します」というコンセプトメッセージを発信。

かめおか霧の芸術祭 ×X
アート × 環境

アートで表現する
環境先進都市かめおか

2018 年に亀岡市が行った「かめおかプラスチックごみゼロ宣言」を受けて、アートを通して環境先進都市を目指すさまざまな取り組みを行う。**2019 年**には廃棄されるパラグライダーの生地を使った「KAMEOKA FLY BAG Project」を実施し、その企画から「HOZUBAG」が生まれた。**2020 年**には「亀岡市プラスチック製レジ袋の提供禁止に関する条例」に合わせたポスターやチラシを制作、紙袋のデザインも担当。今後も積極的に環境プロジェクトを推進。

若手農家の紹介
野菜の直販

期間中、毎週月・木曜日に市役所１階で、若手農家やこだわり農家による直接販売。

プロジェクト
なごみの里 あさひ

特別天然記念物コウノトリが飛来する自然豊かな旭町の直売所で、2020年度から芸術祭と地元の方々とが協働し、地域の未来をともに考える。

かめおか霧の芸術祭 ×X
アート × 農業

地域の農家とともに
未来の食文化を考える

亀岡市には未来の食文化や農業の在り方を考え、こだわりをもった栽培方法で野菜を育てる農家が多く、そんな農家の情報発信とともに、農林振興課とのプロジェクトを展示。
イベント期間中は、こだわり農家や若手農家の紹介も兼ねた野菜の直販を市役所１階エントランスホールで実施。

かめおか霧の芸術祭 ×X

アート × 教育

南丹高校プロジェクト

南丹高校 3 年生「総合的な学習の時間」では、亀岡市の SDGs モデル事業選定を機に、よりよい未来を目指し、各プロジェクトの生徒たちの発見や活動の報告を展示。

- 亀岡市 /BRITA Japan と連帯「プラスチックゴミ ゼロ」プロジェクト
- かめおか霧の芸術祭と連携「地域の良さ発見」プロジェクト
- 龍谷大学との協働学習「かめおかカーボンマイナスプロジェクト」

こども漆体験プロジェクト

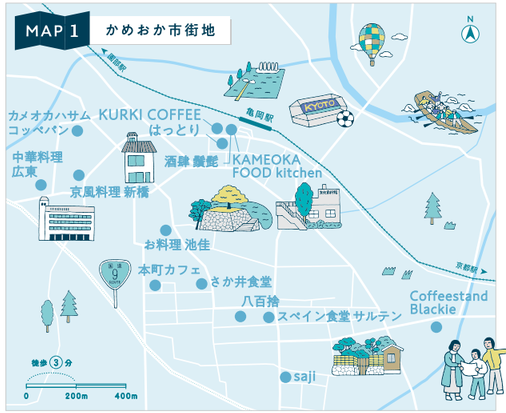
こどもたちに漆を知ってもらい、興味を持ってもらうきっかけづくりを目的として、漆の竹とんぼに金箔を施す特別授業を、今年度は本梅・青野・東別院の３ヶ所の小学校で実施。

亀岡高校　卒業制作展

亀岡高校普通科美術・工芸専攻の３年生 28 人が、同校で ３年間培ってきた力の集大成として制作した作品の一部を展示。

「川とともに暮らす亀岡 2070」展示発表

流域空間デザイン研究会による U40 が亀岡の未来を語るワークショップ「川とともに暮らす 亀岡 2070」本芸術祭と連携して開催、気候変動・人口減少という変化を経て、なお魅力的であり続ける未来の亀岡を描くため 3 回に渡って実施したその成果をパネルで展示。



旬の亀岡野菜を使った
KIRI カレー KIRICAFE

霧の亀岡牛そうめん
さか井食堂

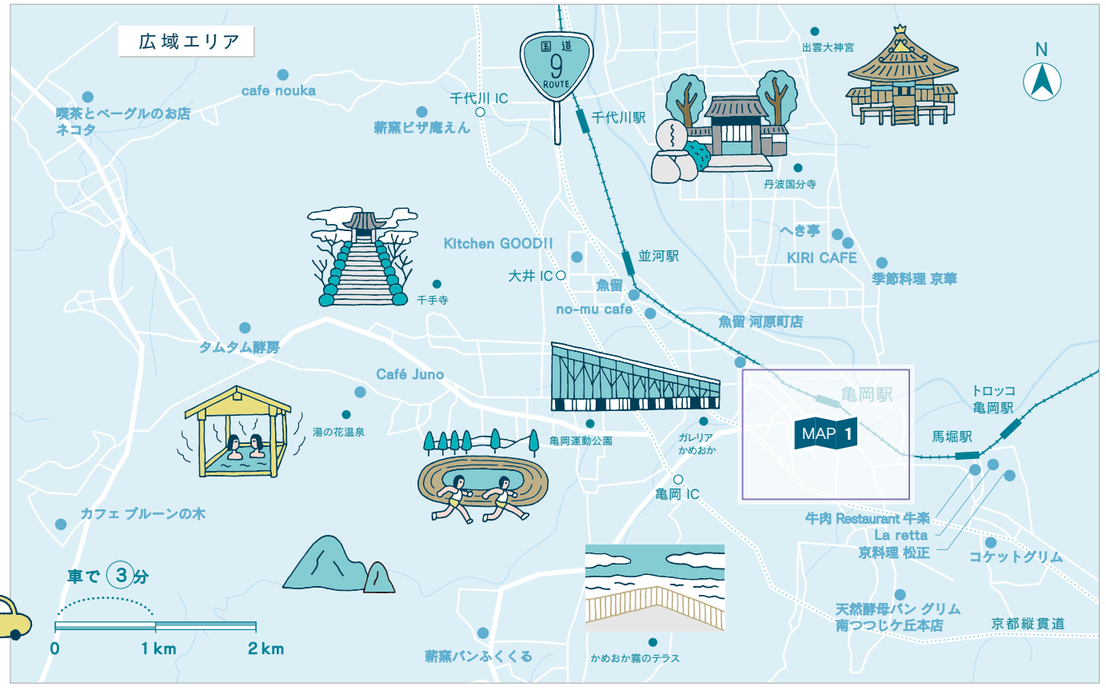
亀岡産いちご秀光パフェ
へき亭

かめおか霧の芸術祭 ×X

アート × 商工観光

KIRI メニュー かめおかの食をめぐる

四方を山々に囲まれ豊かな自然が残る亀岡市、晩秋から初冬にかけては深い霧に包まれる日も多く、こうした気候条件が美味しい農産物を育てる土壌にもなっている。
亀岡産の食材を使ったメニューを「KIRIメニュー」と名付け、市内33店舗の協力の下、かめおかの食をめぐる企画「食の芸術＝KIRIメニュー」を実施。

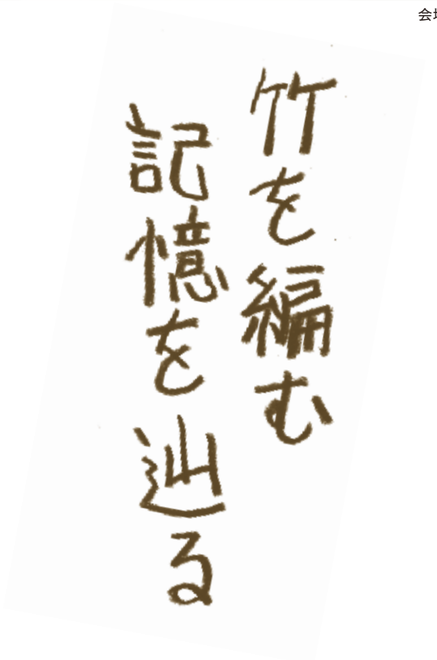


KIRI EXBIHITION

会場製作：MICROCOSMOS

KIRI CAFE

KIRI CAFE がある亀岡市千歳町毘沙門地区では昔から竹細工が盛んに行われてきた。今回、約 50 点の作品を同地区からお借りすることができ、地域の技や竹と共にある暮らしと記憶をめぐる展覧会を開催。



毘沙門地域の竹細工コレクション

千歳町毘沙門地区は丹波では名の知れた竹籠の産地であり、江戸時代から竹細工の技術が息づいてきた。集落全体で竹細工が盛んに行われ、農作業のかたわら内職･副業として（民具農業用具や漁具）や、工芸品（花籠、盛籠）など制作し、京都市内はもとより海外へも輸出していた。プラスチック製品が出回り、生活様式が変化するにつれ次々と姿を消して行くこととなったがが、各自が工夫し、技術を鍛錬しながら様々な方法で生み出された独特の技法があった。

毘沙門地域では当たり前であった竹と共にある暮らし。それぞれの家から竹細工を借りる際に、その当時の暮らしや思い出「記憶」をおしえてもらうことができた。

本展では毘沙門地域の家々に大切に保管されていた作品約 50 点をお借りし､竹と共にあった生活、記憶を辿り、次世代の生活や、ものづくりに繋がる手掛かりを探った。

世界の竹細工

同地区在住、漆造形作家 栗本夏樹氏のコレクションも同時公開。タイ、ミャンマー、フィリピン、インドネシア、台湾、香港、マダガスカルなどの弁当籠や買い物籠などが並んだ。

左より　上林和統、コイワシ、鈴木裕希

演者：リ・イコン

紙芝居劇場

３名の作家が毘沙門地域の方々に聞き書きしたエピソードを基に紙芝居を作成。展示期間中はカフェの蔵が紙芝居劇場となり、毎週日曜に紙芝居を上演。紙芝居の語りは京都芸術大学大学院の留学生で舞台表現、地域芸術を学ぶリ・イコン氏。

作者・物語

上林和統と家族 / 画家
「竹あみ家族」

コイワシ / クレイアニメ作家
「コイになったタケノコ」

鈴木裕希 / マルチクリエイター
「天岳先生と５人の弟子」

動画アーカイブ

制作の様子が記録された映像を上映

オンライントークイベント「竹と共にある暮らし」

2021年２月27日（土）10:00-12:00

登壇者：橋本千菜美（竹の造形家）、鵜飼均（亀岡市文化資料館 館長）、松井利夫（かめおか霧の芸術祭 総合プロデューサー）

進　行：辰巳雄基（かめおか霧の芸術祭実行委員会 / 本展覧会企画）

ワークショップ「青竹で編む六ツ目籠」

2021年２月27日（土）13:00-17:00

講師：橋本千菜美（竹の造形家）

場所：KIRI CAFE

PART 5

KIRI
かめおか霧の芸術祭
Kameoka KIRI Art Cultivation

2018-2021

混ざる霧と音 展覧会「霧に揉まれた芸術はうまい」

KIRI WISDOM 1

KIRI WISDOM 2

KIRI WISDOM

アートやデザインの視点から、身近なものや、暮らしの中を見つめ直し、生き方のヒントとなる知恵や物語をみつけようという場　　会場：KIRI CAFE

KIRI CAFE

08
KIRI CAFE グランドオープン
千歳町毘沙門に「かめおか霧の芸術祭」の拠点
情報発信、知恵の集まる場として誕生

「かめおか霧の芸術祭」キックオフイベント
混ざる霧と音
2018/11/25
会場：ガレリアかめおか

展覧会「霧に揉まれた芸術はうまい」
北山 善夫、栗本 夏樹、西野康造、松井利夫、みずのき美術館コレクション、吉田 伊佐、渡辺 信喜
特別出品：松本治

ライヴ 「第一部：心と体を整える癒しのコンサート」
エイコン・ヒビノ、赤穂美紀、楠田名保子、かめおか市民オカリナ演奏団 with 大沼光代
「第二部：亀岡・霧のサウンドスケープ」
KND + Shoichi Murakami + 八木良太、小松千倫

KIRI2 芸術大学
日本画｜かめおかの天然絵の具で描こう
講師：ベリー・マキコ
洋画｜KIRI のなかにはなにかいる
講師：八太栄里
漫画｜自分をキャラクター化して亀岡ネタで漫画を描こう
講師：グレゴリ青山
陶芸｜「土の色いろいろ」亀岡の原土から粘土を作る
講師：綿引恒平
木工｜糸でデザインする椅子 - 椅子の座編み体験 -
講師：吉田欣司
書道｜自分の名前が劇的に上手くなる
講師：水江風海
料理｜ふれてみたい？みんなで作るフランス料理の世界
講師：長尾淳一郎
ヨガ｜葉っぱヨガ
講師：俣野多映子
染織｜亀岡市保津町で育てた藍で染めよう
講師：吉川慶一
発酵食品｜家庭でできる麹作り
講師：星野潤
特別講座｜ものづくり・絵を描く楽しさを教えます！
講師：京都府立亀岡高校（美術･工芸専攻１､２年生有志）

トーク「霧で芸術を揉み、アートを耕す」
出演者：アレックス・カー・日比野克彦・松井利夫・奥山理子

11
「かめおか霧の芸術祭」キックオフイベント
混ざる霧と音
会場：ガレリアかめおか

2018

09
KIRI WISDOM 1
半農半 X と移住
ゲスト：塩見直紀 (半農半 X 研究所)

10
KIRI WISDOM 2
パワースポットとは何か
ゲスト：植島啓司 (宗教人類学者)

11
KIRI WISDOM 3
山フーズの霧の中のクレープ
ゲスト：小檜山聡子（山フーズ）・Luan BANZAI・Noémie Creux

12
KIRI WISDOM 4
亀岡滞在プレゼンテーション
ゲスト：塩見直紀 (半農半 X 研究所)

KIRI WISDOM 5　お茶堂の会
ゲスト：きむらとしろうじんじん
安川雄基（アトリエカフエ）

KIRI マルシェ
朝と昼と夜 点描で亀岡を描く
2019/03/02-03
会場：KIRI CAFE とその周辺

出店
食｜KIRI CAFE・食堂 souffle・colissimo cafe selen・もしも屋・山フーズ・瓜生山養蜂部・喫茶つきよみ・やぎ地立計画・福井悠平・愛善みずほ会・ハイツ野菜研究部
モノ｜shurint・滝町昌寛・アコラップ・亀岡みんなの古本屋・マヤルカ古書店・吉田欣司・佐野元春・Wakako Aketa・球体アイ・サイネンショー・九谷女子・itou・ヒカミヤレコード・山本 守・Glass Studio Calore・グレゴリ青山古本部

展示
阿部海太（絵）・大村大悟（彫刻）・STUDIO 森森（インスタレーション）

ワークショップ
原始的な道具を作る　講師：大村大悟
シルクスクリーン　講師：bluff

ライヴ
角銅真実・yatchi

制作
KIRI カフェ・山ト波

KIRI マルシェ

アートの視点で「つくる」「食べる」を体験できる場としてのマルシェを開催

03
KIRI マルシェ
朝と昼と夜 点描で亀岡を描く
会場：KIRI CAFE とその周辺

大きなパッチワークから好きな所を切って BAG をつくる

FLY BAG

「かめおかプラスチックごみゼロ宣言」をきっかけに、環境問題について考え行動する機会が増えることを願い Project を立ち上げる

京都芸術大学の学生を中心とした制作スタッフ

07
KAMEOKA FLY BAG Project キックオフイベント
インスタレーション作品を発表
役目を終えたパラグライダーの丈夫で軽い生地を再利用し、パッチワークで巨大なバッグを制作、重機に取り付け空高く上げ、まちの人たちにお披露目
場所：亀岡駅北広場

ワークショップ開催
大きなバッグから小さなバッグに切り分け作り直す。
大きく、やがて小さくなってまちを彩るバッグが象徴となり、環境への想いを広げる。
アートディレクション：武内昭（THEATRE PRODUCTS）
制作統括：UMMM

2019

05
KIRI EXHIBITION 1　副産物産店@亀岡
作家：副産物産店
関連イベント
芸術家の副産物で椅子をつくろう
ゲスト講師：森太三（美術家）
芸術家の副産物でアクセサリーをつくろう
ゲスト講師：岸本敬子（デザイナー）

06
KIRI WISDOM 6　副産物産店 @ 亀岡
ゲスト：副産物産店

KIRI WISDOM 7　世界の田んぼから
ゲスト：伊達伸明（美術家）・松井利夫

芸術家の副産物でアクセサリーをつくろう

07
KIRI EXHIBITION 2　un
作家：京都芸術大学 ファッションデザインコース ゼミ４年生

07
環境ロゴマーク プロジェクト
「かめおかプラスチックごみゼロ宣言」の背景にある「海ごみサミット」からはじまった亀岡市の海ごみ発生抑制の取り組みを含む環境政策を象徴する環境ロゴマークを制作するプロジェクトを実施

Plastics Smart かめおか 100 人会議
ゲスト：豊田 知八（保津川遊船企業組合理事長）・原田禎夫（大阪商業大学准教授）・桂川 孝裕（亀岡市長）・仲山 徳音（亀岡市前副市長）・山内 剛（亀岡市環境政策課長
会場：KIRI CAFE

コミュニティーデザイナー山崎亮さんと亀岡で環境と未来について考えよう！
講師：山崎 亮（studio-L）
会場：亀岡市役所　市民ホール

第一回 ワークショップ

09
環境ロゴマーク プロジェクト

亀岡市の環境政策を象徴するロゴマークを作成するワークショップを開催。「Plastics Smart かめおか100人会議」に参加した市民を中心に19名が、全４回のワークショップにおいてロゴマークを作成

ワークショップ
第１回　2019/09/21
第２回　2019/10/29
第３回　2019/11/09
第４回　2019/12/07
講師：奥村昭夫（デザイナー）
会場：亀岡市役所会議室

KIRI マルシェ vol.2
点描で亀岡を描く
2019/09/28-29
会場：KIRI CAFE・千手庵・毘沙門荘・へき亭

出店
食｜KIRI CAFE・一陽・もしも屋・山角や・瓜生山養蜂部・愛善みずほ会・ハイツ野菜研究部・かたもとオーガニックファーム・べじたぶるぼーと・クサカベ農園・福井悠平・へき亭・やぎ地立計画・ogawaya・喫茶つきよみ・食堂 souffle ・ 家の実・Coffee stand blackie ・ Saji
モノ｜Wakako Aketa・STUDIO 森森・蔵出しサイネンショーと HANDOVER FARM・アコラップ・山成 みんなの古本屋・グレゴリ青山とキリカメ７・Glass Studio Calore・吉田欣司・滝町昌寛・佐野元春・filithematerira・九谷女子・shurint・ヒカミヤレコード＆ペパロン

展示
阿部海太（絵）
大村大悟（彫刻）
STUDIO 森森（インスタレーション）

ワークショップ
原始的な道具を作る
講師：大村大悟
SHOKKI の陶芸教室
講師：SHOKKI
シルクスクリーン
講師：bluff

ライヴ
角銅真実・yatchi・寺田燿児

制作
KIRI カフェ・山ト波

KIRI マルシェ vol.2 ライヴ 寺田燿児

09
KIRI マルシェ vol.2
点描で亀岡を描く
会場：KIRI CAFE・千手庵・毘沙門荘・へき亭

08
KIRI² 芸術大学　うなぎを探しに行こう
講師：田中秀門（亀岡市生涯学習部長）

KIRI EXHIBITION 3
亀岡の魅力がつまった冊子　発行記念原画展
『京都・亀岡 暮らしと、ところ。』『Kyoto-kameoka Hidden gem』グレゴリ青山さんとキリカメ７による漫画本『ナマの亀岡』３冊の完成記念展を開催

KIRI WISDOM 7
亀岡の魅力がつまった冊子の制作について
ゲスト：ベリー・マキコ（挿絵）・仲山德音（英訳）

KIRI EXHIBITION 4
「やおやおや」新しい野菜の売り方・買い方提案
関連イベント
野菜とカレーと古本市　ゲスト：べじたぶるぼーと
野菜収穫と稲刈りとランチ会
ゲスト：かたもとオーガニックファーム・キッチンあまわか
野菜と野菜のまわりの話　ゲスト：369 Works
野菜と音楽　ゲスト：クサカベ農園
野菜と食堂　ゲスト：ハイツ野菜研究部・saji

やおやおや

KIRI EXHIBITION
「KIRI CAFE」に新たにギャラリーとしての機能が加わり、展覧会や関連イベントを行いながら、生命や魂をより一層輝かす「技術」を一緒に学んでいく

亀岡の魅力がつまった冊子 発行記念原画展

09
KIRI EXHIBITION 5　Konect.Tokyo の植木鉢展
関連イベント / **chili-chili 植木鉢づくり**
講師：彦根卓巳（Konect ディレクター）
　　須藤圭太（陶芸家）

chili-chili 植木鉢づくり

KIRI WISDOM 9　Konect.Tokyoと陶芸家
ゲスト：彦根卓巳（Konect ディレクター）・須藤圭太（陶芸家）

10
KIRI WISDOM 10　大本さんの植物園
ゲスト：澤田徹（大本花明山植物園）
聞き手：松井利夫（かめおか霧の芸術祭 総合ディレクター）

11
KIRI² 芸術大学
YOSHIDA WOOD STUDIO 吉田欣司さんと考える「木」
講師：吉田欣司（家具職人）

かめおか霧の芸術祭 - 素顔のかめおか -
2020/01/18-19
会場：ガレリアかめおか
2018年11月のキックオフイベントを皮切りに、年間を通して様々な催しを行い、2019年度事業の集大成となるコアイベントを開催

シンポジウム
世界に誇れる環境先進都市亀岡
豊田知八（世界に誇れる環境先進都市かめおか協議会会長）・武内昭（THEATRE PRODUCTS）・並河杏奈（環境ロゴマークプロジェクト参加者）・松井利夫（かめおか霧の芸術祭総合プロデューサー）・桂川孝裕（亀岡市長）・仲山德音（前亀岡市副市長）

第６回輝きフォーラム
藤浩志（美術家）・榊田隆之（京都信用金庫理事長）・松井利夫（かめおか霧の芸術祭総合プロデューサー）・仲山德音（前亀岡市副市長）・田中英行（アーティスト・霧の芸術祭キュレーター）

アーティストとサスティナビリティ
藤浩志（美術家）・柴田英昭（淀川テクニック）・副産物産店（矢津吉隆＋山田毅）・Parallel laboratory（中里洋介＋山野恭稔）・市村恵介（Antenna）・仲山德音（前亀岡市副市長）・田中英行（アーティスト・霧の芸術祭キュレーター）

持続可能な食と農がひらく新しい亀岡の未来
田村典江（総合地球環境学研究所上級研究員）・大石尚子（龍谷大学政策学部准教授）・鈴木健太郎（369 works）・スティーブン・マックグリービー（総合地球環境学研究所准教授）・松井利夫（かめおか霧の芸術祭総合プロデューサー）・桂川孝裕（亀岡市長）・仲山德音（前亀岡市副市長）・ハイン・マレー（総合地球環境学研究所副所長）

KIRI CAFE 小屋
総合案内所 / カフェ

ガレリア美術館
展示作家：大石早矢香・奥村博美・北山善夫・栗本夏樹・八太栄里・ベリーマキコ・みずのき美術館コレクション・吉田伊佐・渡辺信喜
会場構成：副産物産店

こども漆体験プロジェクト
講師：安井友幸・大矢一成
参加：亀岡川東学園４年生、薙田野小学校４・５年生

かめおかアートマーケット
野菜とフード｜愛善みずほ会･ハイツ野菜研究部･かたもとオーガニックファーム･べじたぶるぼーと・369Works・酒肆鬚髭・cafe selen・ogawaya・もしも屋・つきよみ・saji ･山のテーブル･瓜生山養蜂部・Coffee stand blackie・Kocorono・La retta・やぎ地立計画・ぽっかって・サトちゃん納得ぶたまん・寒山拾得
展示と販売｜谷内亮太・サイネンショー・WATAKAMA・SHOKKI・アコラップ・副産物産店・Glass Studio Calore・木工房 OKA・ Wakako Aketa・佐野元春・京都芸術大学 空間デザイン学科・松永弦楽器工房・グレゴリ青山とキリカメ７・京都・亀岡暮らしと、ところ。・shurint・球体アイ・滝町昌寛・大本花明植物園・kam・漆器修繕くらぶ
ワークショップ｜bluff ・ 吉田欣司・ほづあい研究所・亀岡高校 美術・工芸専攻有志・verdure.

特別企画　山フーズ ×SHOKKI による「全部つくって全部たべる」ワークショップ
食べられる器を作る
食べられる器でビュッフェ体験
企画：企画：山ト波＋山フーズ（小桧山聡子）＋SHOKKI

生ける野菜展

2020

12
KIRI² 芸術大学　漆造形作家 栗本夏樹さんと考える「漆」
講師：栗本夏樹（漆作家）

KIRI² 芸術大学　369Works 鈴木健太郎さんと考える「農と食」
講師：鈴木健太郎（移動八百屋）

KIRI EXHIBITION 6　Laid To Rest
関連イベント / **野菜の彫刻＋鍋の儀式**
作家：Finchittida Finch（アーティスト）

KIRI WISDOM 11 Art & Agriculture
ゲスト：Finchittida Finch（アーティスト）
　　鈴木健太郎（移動八百屋）

こども漆体験プロジェクト
講師：安井友幸（京都市立芸術大学教授）
　　大矢一成（京都市立芸術大学教授）
場所：亀岡川東学園・薙田野小学校

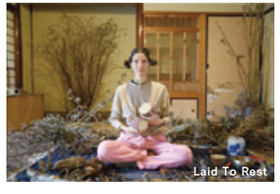
01
かめおか霧の芸術祭
- 素顔のかめおか -
2018年11月のキックオフイベントを皮切りに、年間を通して様々な催しを行い、2019年度事業の集大成となるコアイベントを開催

かめおかアートマーケット

こどもうるし体験

シンポジウム 世界に誇れる環境先進都市亀岡

369Works 鈴木健太郎さんと考える「農と食」


Laid To Rest

ガレリア美術館

KIRI WISDOM 第3回

KIRI マルシェ vol.3
会いにくる芸術祭

2020/10/31-11/01
会場：KIRI CAFE・なごみの里あさひ・たわわ朝霧・ガレリア朝市・犬甘野風土館 季楽

かめおか霧の芸術祭がスタートした当初から続けている KIRI マルシェを移動販売に形をかえて開催亀岡市内の直売所とキリカフェをまわる

出品者
イシコロフリークス・菓風・亀岡産オーガニック野菜セット・狩野岳朗・かわかみ茶葉店・寒山拾得・球体アイ・組ム木工房・栗本夏樹・黒木泰等・高田志保・サイネンショー・たきまちさん・つきよみ・八太栄里・副産物産店・松永弦楽器工房・みずのき美術館・もしも屋・やぎ地立計画・山フーズ・山成 みんなの古本屋・吉田欣司・Kam・aco wrap・bluff ・Coffee stand blackie・ colissimo_cafe selen・Glass Studio Calore・HOZUBAG・saji・shurint・Wakako Aketa・WATAKAMA

ワークショップ
たべるまでをつくる食べるための道具作りと収穫から調理までを考える
講師：大村大悟（彫刻家）
かめおかの景色をつなぐ
編集：小松千倫（音楽家）

演奏
角銅真実・小松千倫

06
KIRI WISDOM オンライン講座
新しい日常を耕す
地域から始まるアフターコロナ の生活様式

第１回　山崎亮（studio-L）
第２回　小林舞（総合地球環境学研究所 研究員）
第３回　伊達伸明（美術家）
第４回　春日部幹（春日部幹建築設計事務所）
　　安川雄基（アトリエカフエ）
第５回　服部滋樹（graf）

06
KIRI EXHIBITION 7　COYA 展
24時間ライブ配信　土・畑・小屋づくり
関連企画
石拾い・石に釉薬をかけて焼く
ゲスト：松井利夫（陶芸家）
土質調査
ゲスト：藤井孝夫
　　（京都先端科学大学 バイオ環境学部）
畑の石の展覧会
場所：KIRI CAFE 横の畑

野菜づくりについて意見交換会と種植え
講師：小林 舞（総合地球環境学研究所 研究員）

KIRI² 芸術大学　路上監察部
講師：八太栄里（美術家）

KIRI² 芸術大学　クレイアニメーションで Gif スタンプ
講師：コイワシ（クレイアニメーション）

KIRI² 芸術大学　小屋の貯金箱をつくろう
講師：森太三（STUDIO 森森）

KIRI² 芸術大学　野草でブーケをつくる
講師：畑美沙子（verdure.）

「小屋の本　霧のまち亀岡からみる風景」刊行
亀岡の風景を象徴する“農機具小屋”をリサーチした芸術祭から生まれた本
著者：辰巳雄基（かめおか霧の芸術祭 実行委員）・
ヤマサキエイスケ・ 安川雄基・冨吉美穂

07
KIRI² 芸術大学　探石会
講師：山田愛（美術家）

KIRI² 芸術大学　漆器修繕くらぶ
講師：栗本夏樹（漆造形作家）

KIRI² 芸術大学　路上監察部
講師：八太栄里（美術家）

KIRI² 芸術大学
農具の再生 - 道具と鍛冶 -
講師：堀田典男（野鍛冶）

KIRI² 芸術大学
手彫りでつくるヒノキのパン皿
講師：吉田欣司（家具職人）

KIRI² 芸術大学
キリカフェの畑で油絵を描く
講師：上林和統（画家）

KIRI² 芸術大学
押し花で表現する
講師：畑美沙子（verdure.）

KIRI² 芸術大学
小屋の貯金箱をつくろう
講師：森太三（STUDIO 森森）

08
KIRI² 芸術大学　探石会
講師：山田愛（美術家）

KIRI² 芸術大学
手彫りでつくるヒノキのパン皿
講師：吉田欣司（家具職人）

KIRI² 芸術大学
霧が育てる保津そば九十日の旅
講師：西村文夫・中野恵二

KIRI² 芸術大学
オリジナルキャラクターで
クレイアニメーションスタンプを作る
講師：コイワシ（クレイアニメーション）

KIRI² 芸術大学
お気に入りハーブの植え替え
講師：畑美沙子（verdure.）

KIRI² 芸術大学
手彫りでつくるヒノキのパン皿
講師：吉田欣司（家具職人）

クレイアニメーションで Gif スタンプ

色相の椅子をつくろう

色相の椅子をつくろう

KIRI マルシェ vol.3　たわわ朝霧

KIRI マルシェ vol.3　KIRI CAFE

演奏 角銅真実

10
KIRI マルシェ vol.3
会いにくる芸術祭
会場：KIRI CAFE・なごみの里あさひ・たわわ朝霧・
　　ガレリア朝市・犬甘野風土館 季楽

2021

02
かめおか霧の芸術祭
めぐるかめおか
霧のまち
かめおかを
めぐりめぐる
18 日間

09
KIRI² 芸術大学　漆器修繕くらぶ
講師：栗本夏樹（漆造形作家）

KIRI² 芸術大学
手彫りでつくるヒノキのパン皿
講師：吉田欣司（家具職人）

KIRI² 芸術大学
霧が育てる保津そば九十日の旅
講師：西村文夫・中野恵二

KIRI² 芸術大学
オリジナルキャラクターで
クレイアニメーションスタンプを作る
講師：コイワシ（クレイアニメーション）

KIRI² 芸術大学
キリカフェの畑で油絵を描く
講師：上林和統（画家）

やおやおや出店
saji による旭町の新米をつかったおにぎり屋台
場所：農産物直売所なごみの里あさひ

10
KIRI² 芸術大学　路上監察部
講師：八太栄里（美術家）

KIRI² 芸術大学　外ヨガ
講師：俣野多映子（ヨガインストラクター）

KIRI² 芸術大学　手彫りでつくるヒノキのパン皿
講師：吉田欣司（家具職人）

KIRI² 芸術大学　オリジナルキャラクターで
クレイアニメーションスタンプを作る
講師：コイワシ（クレイアニメーション）

KIRI² 芸術大学　探石会
講師：山田愛（美術家）

やおやおや出店
場所：嵯峨嵐山駅

11
KIRI² 芸術大学　手彫りでつくるヒノキのパン皿
講師：吉田欣司（家具職人）

KIRI² 芸術大学　そばの収穫・脱穀
講師：西村文夫・中野恵二

KIRI² 芸術大学　キリカフェの畑で油絵を描く
講師：上林和統（画家）

KIRI² 芸術大学　路上監察部
講師：八太栄里（美術家）

KIRI² 芸術大学　色相の椅子をつくろう
講師：森太三（STUDIO 森森）

KIRI² 芸術大学　ビカクシダの板付けレッスン
講師：畑美沙子（verdure.）

やおやおや出店
スペイン食堂「サルテン」による料理
場所：農産物直売所なごみの里あさひ

銀座蔦屋書店　オンライントークイベント
小屋にみる「つくる」と「つかう」

12
KIRI² 芸術大学　着彩画のためのレッスン
講師：吉田伊佐（洋画家）

KIRI² 芸術大学　ビカクシダの板付けレッスン
講師：畑美沙子（verdure.）

KIRI² 芸術大学　DIY クリスマスパーティー
講師：佐藤友佳（アーティスト）

KIRI² 芸術大学　そば打ち体験
講師：西村文夫・中野恵二

SDGs 対話イベント「しぜんの中の小さな会議」
ファシリテーター：丹下紘希（映像作家）

KIRI² 芸術大学
「KIRI CAFE」を教室として活用し、亀岡に拠点を置いて活動を行うアーティスト、職人、農家などを講師に招いて受講者参加型の講座を開講

漆器修繕くらぶ

探石会

路上観察会

ビカクシダの板付けレッスン

DIY クリスマスパーティー

霧が育てる保津そば九十日の旅

畑で油絵を描く

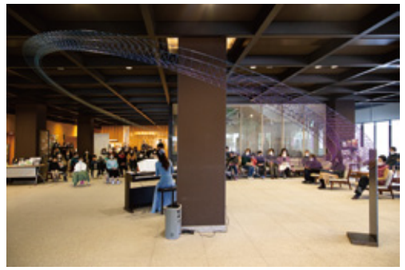
めぐるかめおか

かめおか市内をめぐる18日間

亀岡市文化資料館で展示の安藤隆一郎による企画

「民具大運動会」

機械化が進んで活躍の機会が少なくなったたくさんの農具たち。かつては人と民具が人具一体となって一生懸命運動していた。道具は身体の一部となり、身体は道具となる。運動会で最強タッグの復活！



霧の芸術館｜みろく会館

東坂萌里　ミニロビーコンサート

亀岡出身で京都ピアノコンクール金賞、長江杯国際音楽コンクールピアノ部門第 1 位など数々の受賞歴を持つピアニストによるミニロビーコンサート。

保津川河川敷グラウンド

気球体験

気球に乗って上空から雄大な亀岡の自然美と街並みを見渡せ、普段とは違った体験会。

霧の芸術家の作品展示・販売

トレーラーハウス “hi-ho”

石臼でのお抹茶挽きと野点の体験、京松正による ～めぐるかめおか～ 限定のお弁当販売など、期間中の週末、文化資料館の駐車スペースに登場。

作品展示

アートイレ

「正当にひとりになれる空間」というトイレに隠された価値を「アート観賞の絶好の場」と捉えた、いわば芸術を通した社会実践。

野菜の直販

やおやおや

会期中の毎週月･木曜日、亀岡市役所 1 階エントランスホールにて若手農家やこだわり農家による野菜直販や、亀岡野菜をつかった菜食弁当を販売。

オンライン開催

「川とともに暮らす 亀岡 2070」シンポジウム

「川とともに暮らす 亀岡 2070」をテーマとした成果発表とこれからの未来について、亀岡市長もゲストに交え、オンラインでともに考える。

上映会＋トークイベント＋まち歩きガイドツアー

映画「かめじん」

亀岡 H 商店街を舞台に繰り広げられるドキュメンタリー映画「かめじん」の上映会を開催。上映後には主人公を演じた並河杏奈氏のトークイベント＋まち歩きガイドツアーも同時開催。

くらしゴト Labo

あみ笠だんごの販売

「離れにのうみ」公開日に合わせ、くらしゴト Labo による亀岡市千歳町地域に古くから伝わる「あみ笠だんご」の販売。

KIRI
かめおか霧の芸術祭
Kameoka KIRI Art Cultivation

～めぐるかめおか～

霧のまち　かめおかを　めぐりめぐる　18日間

会期　2021年 02月11日（木･祝）― 28日（日）

会場　亀岡市役所 / 亀岡市文化資料館 / 大本みろく会館 / みずのき美術館 /KIRI CAFE/ 旧おぎた商店 / 旧沼田モータース / 稱名寺 / 嶺樹院 / 大圓寺 / 本門寺 /「離れ」にのうみ / その他、市内各所

主催　亀岡市 / かめおか霧の芸術祭実行委員会

共催　亀岡市教育委員会 / 亀岡市文化資料館 / 宗教法人大本 / 社会福祉法人松花苑 みずのき美術館 / 亀岡文化交流協会

協力　亀岡市自治会連合会 / 京都芸術大学 / 京都市立芸術大学 / 亀岡高等学校 / 南丹高等学校 / 一般社団法人亀岡市観光協会 / 一般社団法人森の京都地域振興社 / 千歳町毘沙門区 / 農事組合法人旭 / 一般社団法人きりぶえ / 一般社団法人 Fogin / THEATRE PRODUCTS / 亀岡おもしろ街歩き隊 /no-mu / #skyhacker / 流域空間デザイン研究会 / 亀岡市障害者就労支援共同センター / 京都 : Re-Search 実行委員会 / 一般社団法人 Design Week Kyoto 実行委員会 / 文化庁 地域文化創生本部 / 京都信用金庫 / 株式会社バックス・サワダ / 株式会社三煌産業

後援　京都府 / 京都新聞 /KBS 京都 /N H K 京都放送局 / エフエム京都

クリエイティブ　graf / 副産物産店 / iei studio / シガーシガ / UMMM / アシタノシカク / ぱいせん / 朝野ペコ / 渡邉務 / MICROCOSMOS / 山城大督

運営　アースコンシャス

総合プロデューサー　松井利夫

かめおか霧の芸術祭実行委員会

顧問　桂川孝裕（亀岡市長）/ 委員長　石野茂（亀岡市副市長）/ 副委員長　塚本政雄（亀岡市自治会連合会会長）/ 委員　徳山竜一（亀岡市政アドバイザー）/ 廣瀬照雄（千歳町自治会長）/ 藤原庸右（旭町自治会長）/ 吉田伊佐（洋画家）/ 栗本夏樹（京都市立芸術大学教授 / 吉村要（京都府立亀岡高等学校校長）/ 川勝啓史（京都府立南丹高等学校校長）/ 山田歌（大本本部総務部長）/ 楠善夫（(一社）亀岡市観光協会会長）/ 大久保伸一（(一社）亀岡青年会議所副理事長）/ 山田二朗（(一社）森の京都地域振興社（森の京都 DMO）監理部長）/ 豊田知八（世界に誇れる環境先進都市かめおか協議会会長）/ 山本善也（(公財）生涯学習かめおか財団常務理事）/ 鳥山恒夫（亀岡市シティプロモーション担当室長）/ 由良琢夫（亀岡市環境市民部長）/ 吉村一志（亀岡市産業観光部長）/ 國府美幸（亀岡市教育委員会教育部次長）/ 鵜飼均（亀岡市文化資料館館長）

事務局長　田中秀門（亀岡市生涯学習部長）/ 事務局次長　小塩睦子（亀岡市生涯学習部文化国際課長）/ 事務局　岡田春樹（亀岡市生涯学習部文化国際課主幹）/ 服部理恵子（亀岡市生涯学習部文化国際課文化国際係長）/ 金子真也（亀岡市生涯学習部文化国際課文化国際係（会計））/ 格畑智冴（亀岡市生涯学習部文化国際課文化国際係）

プロジェクトアドバイザー　田中英行 / プロジェクトディレクター　辰巳雄基 / プロジェクトマネージャー　持田博行 / コーディネーター　武田幸子 / エンジニア　中川哲光 / プランナー　佐藤友佳 / 佐藤壮一郎 / 並河杏奈

スタッフ　阿部春香 / 飯坂拓也 / 石橋瑚子 / 岩井さくら / 岩橋勇歩 / 岩山夏己 / 岡亜弥音 / 大倉沙耶 / 大西香菜子 / 大野温子 / 岡田直樹 / 岡本正人 / 小和田悠 / 柿本康治 / 風戸穂乃花 / 加藤建輔 / 鎌田帆夏 / 神谷拓範 / 川端菜々美 / 木川瑞希 / 木村まい / 倉光優 / 佐藤まり / 宅間紗矢 / 竹之内春花 / 多田照美 / 谷口雄基 / 土屋憧真 / 新田さやか / 冨澤美与 / 萩原望乃里 / 藤原沙羅 / 藤原菜津美 / 前田あかり / 前田裕紀 / 松岡愛香 / 真弓藍子 / 用澤菜奈子 / 森國文佳 / 矢谷未来 / 柳雄斗 / 山本小蒔 / 横井琳 / 吉川鈴夏 / 雷惠茹 / リ・イコン / 渡辺吉平

協力　足立昭博（hi-ho）/ 豊川竜太（アートイレ）

霧の芸術館「線を引き続けるためのプラクティス」
企画　副産物産店（矢津吉隆＋山田毅）
クリエイティブ　井上みなみ / 小西景子
スタッフ　足立夏子 / 石坂楓 / 岩村拓哉 / 大澤一太 / 大野温子 / 大塚峻太郎 / 鎌田咲 / 西村美波 / 播磨竜太 / 松井照太 / 山口遼太郎

KIRI
かめおか霧の芸術祭
Kameoka KIRI Art Cultivation

～めぐるかめおか～

霧のまち　かめおかを　めぐりめぐる　18日間

発行日	2021年03月
デザイン	小山真有
表紙イラスト	PAISEN
イラストマップ	朝野ペコ　(p.44, p.57)
写真撮影	衣笠名津美　(p.7, p.63) 表恒匡　(p.12-39) 梅田彩華写真事務所　(p.40-43) 山根香、田中英行　(p.48-51) 麥生田兵吾　(p.58-60)
編集	持田博行（アースコンシャス）
発行	かめおか霧の芸術祭実行委員会
助成	一般財団法人　地域創造